

寶相華

巻頭四方山話

会長 瀬川 雅 数
(昭43年卒)



「ゆく河の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず。よどみに浮かぶうたかたはかつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし」。人生の無常を述べた方丈記の冒頭である。今日の朝食の内容を忘れるような高齢者となった私が半世紀前に高校で習った古典を思い出せるのは不思議なものである。方丈記が書か

れた時代は大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」とほぼ時期を同じくする。遠い昔の随筆なのに、書かれている世の無情が時の流れた現在にも感じられるのは残念である。

ロシアがウクライナに軍事的侵略を始めてもうすぐ一年となる。戦後の平和と自由な、そして安定した社会に満足している日本では多国間の戦争は起こり得ないと誰もが思っていたのではないだろうか。しかし、戦争は始まり、国際連合も解決策を見出せないでいる。何せ侵略を始めたのが国際連合の常任理事国で

宝相華会 (同窓会)
会報 No. 87

発行者 瀬川 雅 数
編集者 藤原 正義
発行所 県立奈良高校同窓会
印刷所 共同精版印刷(株)

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。(筒井寛秀((中11回))収録)

あるロシアなのだ。第二次世界大戦で世界は何を戦争から学んだのか。世界の国々は平和の大切さを学んだはずである。しかし、考えてみれば人類が生まれてから、集団であり、個人であり、欲望が行動の動機であれば歴史が示す如く、過去にも起こっていたし、未来にも必ず起こることは争いである。戦争を起こさない社会を築くことは人類の永遠の課題であろう。また、コロナ感染症は終息の兆しが見えそうにもない。感染者数は増加しているものの、ワクチンの効果で重症化を防ぐことはできている。その結果、社会における行動制限は緩和され、ほぼ以前の日常生活が取り戻されてきている。重症者が少なくなるとコロナ対策より経済活動活性化の方がより優先される。しかし、完全

な治療薬が開発されていない状況では、果たしてこのまま感染症が終息するか予断は許されないのが現状だ。さらに、人類に課せられた大きな問題が地球温暖化による自然環境の変化である。この問題を解決すべく、英知を集めて解決策を検討している国際会議も各国間の利害を調整できないのが現状だ。世界は危機的な状況である。しかし、身近な生活に変化がないと、未来に迫る危機は自分たちが生きている間には起こらないと信じている人が世界には多いようだ。自由で余暇を楽しむ

ことが現在資本主義社会の目的なら、それやむを得ないかと思う反面、その先の未来には破壊が訪れるのではと心配する。心配するだけで時の流れるままに身を任せるのはいけないだろう。小さなことからでも解決に向けて勇気を持って行動を起こすことが必要だ。
哲学者梅原猛は勇気について次のように述べている。
「集団はいつも欲望や権力や無知によって腐敗する傾向を持つが、こうして腐敗しようとする集団に対していつも否定的という勇気をなくしてはたち

総会予告

令和五年度 宝相華会総会

日時 令和五年四月十六日(日) 十時開会

場所 ホテル日航奈良(丁R奈良駅西側)

会費 五,〇〇〇円(当日受付いただきます)

(但し、新入会員無料、平成二十八年以降の卒業生三,〇〇〇円)

世話係 昭和55年卒

恩師の先生方も来ていただく予定です。お誘い合せの上多数御参加下さい。

※新型コロナウイルスの影響により延期になる場合がございます。

宝相華会事務局

まちにして民主主義は衆愚的政治に転化する。集団の外にあり、いつも傍観者として否定的というのはやさしい。彼はその時一つの自己を確立するかもしれないが、それは否定的な自己であり、この否定的な自己は長い間、否定に執ると、やがて、ねじ曲がり、こじれ曲がり、この世を全くひが目で見る自己となる。集団が腐敗するように、自己もあまりにも腐敗しやすいのである。自己の腐敗は決して酒や、異性や、麻雀によってのみ起こるものではない。それはむしろある安定によって自己を厳しく見る目を失うことによっても起こるのである。権力のある地位や、恵まれた状況にある時、そこに最も大きな自己の腐敗が起こるのである。こうしたいつも腐敗しやすい自己に対して、いつも批判の目をむけ、時には過去の自己に対して、潔く訣別を告げることが、自己の成長のためには必要である。私は青年たちに自己を確立する勇氣と共に自己と訣別する勇氣をすすめる」(梅原 猛

「日常の生活」集英社文庫、一九八六年)。世界で多発する悲惨な事件から私たちは何かを学び、便利な生活が不便になっても、未来をよくする課題に立ち向かう勇氣が必要である。

さて、奈良高校は令和四年に法蓮から朱雀の地に移転し、新しい時代に踏み出しました。また、高校創立百年を令和五年に迎えます。百周年の記念行事・記念事業に向かって、令和四年より奈良高校・宝相華会・育友会がその準備を始めています。さらに、校舎の移転に伴って法蓮

校舎にある記念碑等を朱雀の地に移設する計画が進められています。それらの事業には多くの費用が必要となります。校舎の移転や創立百年に向けての宝相華会の活動をご理解の上、今まで以上のご協力・ご支援をお願いします。最後にになりましたが、移転した朱雀の校舎における高校の更なる発展を祈念します。

れたり、荷解きをしては段ボールを潰す作業が繰り返し行われました。一方、生徒は固くなったグラウンドやテニスコートを丁寧に整備をし、体育館では用具の搬入を終えた後に練習を始めていたり、トラックから楽器を荷下ろしした吹奏楽部員が音出しを始めたたり、すっかり朱雀の地に馴染んで活動を始める様子には頼もしさを感じました。

の皆さまには日頃から益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。瀬川会長様、顧問の中村様、藤本様、小山様をはじめ、多くの会員の皆さまよりご指導とご支援をいただきました。温かく見守っていただきましたお陰で、今年度も生徒は様々な分野で幅広く活躍し、多くの成果を上げてきています。本当にありがとうございます。

いあつち

学校長 前田 景子



令和四年四月一日、法蓮から朱雀に移転した奈高の新年

度は、校内あちこちの廊下で段ボールが山積みになられた中が始まりました。それら段ボールを教職員が職員室や事務室、教科準備室等に運び入れたり、生徒が部活動の用具等を取り出して部室に運び入

取りながら、書類はまず本棚に収納しました。大半の段ボールには、各種の賞状や盾、優勝カップやトロフィーなど、様々な分野で生徒が活躍した功績を称える証が入っており、それら一つ一つを手に取りながら埃を拭い、これまでの奈高の歴史に思いを馳せ、奈高生の活躍ぶりに感動しながら、丁寧に戸棚に飾っていききました。この頃から校庭の桜が咲き始め、始業式の四月八日は桜花爛漫の中での新学期のスタートとなりました。以来、一年が経とうとしています。

改めまして、宝相華会会員の皆さまには日頃から益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。瀬川会長様、顧問の中村様、藤本様、小山様をはじめ、多くの会員の皆さまよりご指導とご支援をいただきました。温かく見守っていただきましたお陰で、今年度も生徒は様々な分野で幅広く活躍し、多くの成果を上げてきています。本当にありがとうございます。

頂戴したことは大変嬉しく、元気をいただいでまいりました。

さて、令和五年に創立百周年を迎える本校は、百一年目にあたる令和六年に奈良高校創立百周年記念事業を行う予定で進めております。記念事業の一環として、十月三十日に、「ホームカミングデーイン法蓮」を開催させていただきましたところ、約二千五百名の卒業生、恩師の方が法蓮の学舎を訪ねてくださいました。ミニ同窓会や、校地のあちこちで旧友との再会に話を弾ませ、思い思いに校舎を散策したり、六十名もの恩師ビデオの上映、卒業アルバムや生徒会誌の展示などをご覧いただいたり、それぞれの想い出とともに、穏やかなひと時を過ごしていただけたのではないかと思います。

奈高のクリアファイルや写真を購入していただいた方に、教室の床のチップを磨きニスを塗って記念品としました。奈高の教室での思い出を手元に置いていただけるといいこととても人気があり大

変喜んでいただきました。また、屋上から見る景色は初めてという方も多く、新たな想い出のピースを増やしていただいたのではないのでしょうか。

ホームカミングデーの後、奈高の象徴でもある「プラトン・アリストテレス像」、「自主創造の石碑」を朱雀の学舎の、登校する生徒を迎え見守る玄関前に移設していただきました。奈高創立五十周年記念事業として堅儀の庭にアテネの学舎が建像され、自由な対話や語りの中に「義」を見い出し、真理と善と美を追究する学教の場に相応しい精神を、これからも引き継いでいきたいという願いをもって、百周年の記念事業として中庭の整備を考えております。様々な面で宝相華会の皆さま方のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の新たな取組として、「地域連携センター平城山」の紹介をさせていただきます。朱雀の地への移転に伴い、これまで平城高校が

四十二年に渡り果たしてこられた歴史と文化を尊重し、地域連携の取組を奈高が受け継ぎ、さらに発展させ、地域に愛され地域に育てていただけるようにと、県教委が奈高内にセンターを設置され、本校の主幹教諭がセンター長を兼務しております。当初、三つの行事を引き継ぐこととしてスタートしましたが、奈高独自の取組も模索しつつ、総務委員をはじめ、放送局・有志・各部活動生徒が地域連携事業を盛り上げてくれています。地域連携の取組は、奈高HP内の次のURLで紹介しています。

<http://www.e-netnara.jp/hs/nara/index.cfm/1,0,49.html>

県立高校にとつての地域連携とは、学校の所在地である平城東中学校区を中心として、さらにもっと広い地域を含んでいると考えます。連携行事に取り組みながら、小中学生が奈高に憧れを抱き、奈高で学びたいと魅力を感じていただけるような学校づくりを、これからも邁進してまいります。

結びに、これまで輝かしい歴史と伝統を積み上げてこられた宝相華会の皆さま方に改めて敬意を表しますと共に、学舎の所在地は変われども、母校に対する変わらぬ愛情を

恩師の便り

次の百年

谷垣 暁弘

(昭41年卒)

元教諭(昭54～63年迄在職)

先日、奈高の卒業生からお手紙をいただいた。その一節には、次のような記述があった。……高校を卒業して四十年近くが過ぎましたが、みんながそれぞれの場所ではがんばっていることが、自分の支えになり、励みになっているのだなあと、改めて感じました。奈良高校の法蓮校舎の「ホームカミングデー」も開催されたようで、私は行かなかったのですが、同級生経由で懐かしい校舎の写真をたく

さん見ました。あの場所がなくなるのが、多くの卒業生にとつて、大事なものを失うことなのだなあと改めて思いました(それを言えば、平城高校の卒業生も同じ思いをしたのだらうと思います)。……この二十数年、奈良県では高等学校の再編統合がすすみ、当該校の生徒はもとより、多くの関係者がこの便りをおくれた卒業生と同様の複雑な思いを持ったことと思われる。

私はいわゆる「団塊の世代」の第一陣である。当時の奈高の入学定員は確か七百二名、今では考えられない数であった。憧れの奈高の徽章をつけた真新しい帽子をかぶった新一年生が、誇らかな気持ちで向かった校舎は、舟橋通りと一条通がぶつかるあたりにあった、旧制奈良中学校以来の伝統的な風格のある校舎であった。まもなく、びっくりするものが起こった。教室の数が足りないということ、で、一年生が順番に、奈高の南側に今もある佐保小学校の空き教室をお借りすることになったのである。佐保小学校は私が卒業した小学校、また小学生に戻ったような気がしたものである。だが、次々と団塊の世代が高校に押し寄せ

る時代に、小学校の間借りでのしげる由もなく、少し離れた佐保田の丘に新校舎の建設が始まったのである。「法蓮校舎」である。そして、私が三年生になった時、前年度途中に本館のみ完成していた新校舎に移ることになった。もちろん体育館や特別教室はま

だなく、旧校舎と新校舎を行き来する日々が続いたのであった。考えてみると高校三年間、それぞれの学年で違った校舎で学ぶという、不思議な体験をしたのである。

以前、小学校の校長を長く務められた、奈高の先輩の先生のお話を伺う機会があった。その先生はものの見方の一つの例示として、学校に倉庫を作るときに一番大切なことは何かと、我々に問いかけられた。そして、私ならと前置きして、独立した別々の入口と出口を作るとおっしゃったのである。出入口が一つならそこで入るものと出るものがぶつかり、混乱や停滞が生じる。二つあれば流れが一定方向になり、決められた場所に物を置いたり、取り出したりがスムーズにおこなわれるというのである。当たり前といえれば当たり前の話なのだが、物の本質というか、何が真に大切なものなのかを見抜く目を持つことの大切さを教えていただいた話として印象に残っている。まもなく、創立以来百年の年輪を刻まれる

奈高の、次の百年を見据えた深く本質に迫る堂々たる学びは、校舎が変わっても脈々と

受け継がれていくこととされる。母校の益々のご発展を祈るのみである。

よみがえれ！帯解駅

木原 勝 彬

(昭39年卒)

JR万葉まほろば線の帯解駅は、明治三一年に奈良鉄道の駅として開業しました。大正一五年の大改築後、昭和四〇年代にも改修の手が加えられ、現在の駅舎に至っています。

令和四年六月には、国の文化審議会で「地方駅舎として



登録有形文化財 帯解駅舎

標準的な規模で、私鉄が整備した明治期駅舎として貴重」と評価され、帯解駅本屋が登録有形文化財となりました。現役鉄道の駅として、二〇年を超える歴史を歩み続ける帯解駅の特筆すべき事柄を紹介したいと思います。明治四一年ですが、明治天皇が陸軍特別大演習を総監するため、帯解駅を下車されています。廣大寺池を見下ろす今市町の高台には、「大元帥陛下駐蹕之處」(明治四三年建立)の記念碑が建っています。

駅から人力車でした。宮さま方のために、駅には、特別の待ち合い室も造られました」との記述が見られます。また、三島由紀夫の『豊穡の海(一)春の雪』(昭和四四年)にも、「娘は一等待合室に残して」との表現があり、貴賓室的な待合室があったことが伺えます。

保存改修の時期ですが、現時点では、大正一五年の大改築がおこなわれた頃の駅舎に復元整備したいと思っています。竣工後は、地元の「帯解駅舎保存・活用の会」が管理運営をする予定で、日夜、奈良市との協議・調整を続けていきます。

そして、次の機能を合わせ持つ地域の活性化拠点にしたいと思っています。

- ◆地域住民の交流の場／地域住民の出会い・ふれあい・語らいのサロン／高年齢者の集い、絵画、写真などの展示、コンサート、落語などのイベント会場として
- ◆地域学習の場／わがまち、帯解再発見／子供から大

次に、帯解郷土研究会発行の小学生向けの読本『おびとけ』(昭和四二年)には「円照寺へ行かれる宮さま方は、

人まで、世代を超えて帯解の歴史・文化などを学び・探求する拠点として

◆ 来訪者との交流の場として
なしエントランス…帯解地域及び近隣地域を含む広域観光案内の拠点、山の辺の道、廣大寺池周遊などの散策の起点として

◆ 特産品PRの場／地場産品の情報センター…帯解の農産品、特産品などの

PR、「帯解駅前にぎわい市」の会場として

最後にありますが、大正末・昭和初期、あるいは戦前の帯解駅の写真を探しております。お持ちの方がおられましたら、ご一報をお願い致します。連絡先は
帯解駅舎保存・活用の会代表
090-6673-3452、
ma34yd35ml@kcn.jp

奈良高が繋ぐ英語の縁

植 嶋 平 治

(昭47年卒)



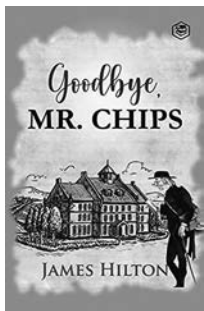
私は昭和四四年四月に入
学、私の一年のクラス九組は
校舎の最上階にただひとつあ
る正にボツンと一軒家のような
教室であった。担任は卒業
生の広島大学教育学部で学ば

れた新進気鋭の森崎先生で
あった。森崎先生は国語の担
当で、現在は退官され、古事
記を編纂した太安万侶の遺骨
を納める奈良市大野町の十輪
寺住職となられている。また
卒業生の井筒監督が在学当時
家出した際に連れ戻し先生
のご自宅に泊ませたというエ
ピソードでも知られる。私は
全く国語のセンスがなく、先

生の授業について語れる資格はない。ただ先生は剣道部の顧問をされており、国体選手でIQが一番高いのは剣道の選手で、それは武道は筋力だけでなく、知力の発達も促すからだと言われたことだけでも頭に残っている。それを聞いて本当に剣道部に入部したクラスメイトがいたし、私もその影響を受け、同じ武道の弓道部に入った。
さて、一年九組はそういうわけで他のクラスとは隔絶された場所であったため、日中、他のクラスとの行き来も少なく、独自の進化を遂げて、大海に浮かぶ孤島のような存在であった。私はクラス委員を務めることになり、勉強そっちのけで行事運営にかなりの力を注ぎ、文化祭では巨大な動くガリバー像を作って他クラスを圧倒したのが思い出だ。

毎日悩んでいた。
唯一の楽しみは弓道部での活動で地域や年齢を超えた交流が生まれる場所であった。名前を忘れてしまい、どうしても思い出せないのが、同じ生駒中学から奈良高に進学して弓道部で活動していた先輩の女性である。弓道部ではよく橿原神宮の弓道場まで遠征した。帰りの電車の中で一緒にいるその先輩と親しく話す機会が多くなった。好意を抱くというより、勉強の悩みを聞いてくれるいいお姉さんであった。彼女から、英語の勉強は実際に英語を使ってその楽しさを味わうのが上達の近道だとして、彼女が通っている富雄の教会での英会話サークルに誘われ、毎週土曜日通うことになった。一年の終わり三学期くらいだったように記憶している。当時、英語は文法をマスターすれば話せるものと信じていた。英語を話す前に、文法に基づき頭に浮かんだ国語を英語に翻訳するといった過程を経たもので、ほとんど会話にならない状況であった。教会ではオースト

リア人の神父が、YMCAが作成した英会話テキストを使って話す楽しさを教えてくれた。また、英語はリズム感が大切で、その英語のリズムを耳に馴染ませるには英語で放送されるFEN(米軍向けの当時は短波放送)を聴くことを勧められた。FENの英語のスピードは速く、理解不能であったが何とはなしに英語の話し方のニュアンスみたいなものを学習した。またラジオから流れるビーチボーイズ等のアメリカンサウンドにも魅せられることになった。
さらにその先輩から、英会話だけでは受験英語はもたないから、よければ自分の通っている英語塾に来ないかと誘われた。二年生の夏休みの頃だった。
入塾には面接があつて、学年ごとに時間が分かれていた。先生は関西の有名私大の英文科の教授で、自宅は学園前の大きな池のほとりある芝生に囲まれた豪邸だった。入塾を許され入ってみると、なんと裕福そうな家庭の生徒ばかりで、奈良高の同級生も



(注)当時配られたものとは異なりま

数名いた。一人は芸大、もう一人は医学部を目指す聞き、自分の目的の無さを思い知らされた。その塾は、英作文に特化した内容であった。言葉が異なると考え方自身が異なり、例えば「S + V + O」のように必ず主語は何か？から始まる言語と、日本語のように主語が曖昧である言語の違いなど、異文化への興味を持たせる内容だった。その頃、奈良高の英語の授業は文法が山田先生、英語の読本は水木先生であった、二人とも英語教師ではおられたが、英語は手段で英語で何を考え、どんな道を自分で切り拓くのかといった授業内容で、教科書からは離れた内容が多かった。しかし、試験は受験英語から出るといったまるでフェイントをかけられたようであったが、この二人を紹介しての英語との出会いが私

の人生に大きく影響を与えることになった。

英語の授業の副読本として「Goodbye Mr. Chips」(チップス先生さようなら)という英国名門学校教師の生活を描写したものが配られ、英語で読む物語の楽しさを教えていただいた。この本は節々に英国の香りが漂い、私はこの本の影響で後々英国の虜になり、大学在学中には南イングリッシュでホームステイしながら語学留学を経験した。また水木先生は私の三年のクラス一組の担任でもあった。水木先生の授業は今から思うと大学レベルのもので、三年になると英字新聞を使って、内容をいかに早くつかむかといった授業であった。山田先生はフランス語など英語以外の言語も話題にされ、私にとっては日々刺激的であった。水木先生は既にお亡くなりになられたが、退官後横浜にあるお子さんの家に同居され、何度か先生をお招きして、三年一組の関東在住者でクラス会を開き、楽しい時間を過ごすことができた。

わたしはこの二人の英語の先生、教会や大学教授の塾に誘っていただいた奈良高の先輩の影響で、大学生、社会人になっても英会話のレッスンを継続し、Y M C A 英会話学院土佐堀校に通った。Y M C A では家内と出逢うことになった。さらに勤務先金融機関から、米国留学や政府系機関の駐在員としてロンドンに派遣され、また9・11の惨事が起きた時期に、混乱の中、ニューヨーク支店長も務めることになった。すべては英語

を長年学び続けていたお蔭で、人生のかけがえのない経験と思いい出をつくることになったのは、私の貴重な財産である。現在は、人生の何番目かのコーナをまわるところで、青森県八戸・五戸で仕事をしているが、車に乗る時に選局するラジオ局は青森県三沢米軍基地局の英語放送である。いまだに英語を楽しめるのは、奈良高のお蔭と心から感謝したい。(内容記憶相違があればご容赦ください)

卒業して五〇年余

山田 恵 敏

(昭47年卒)



一、母校の校舎移転に寄せて「毎日学校に行くことを『登校』、学校を出て家路に

つくことを『下校』と言うように、学校はやや小高いところに建っているのが理想的なんだ。」
「地域のシンボルの一つとして子どもや人々からよく見えるように、だ。この学校はその条件によくあてはまる。」

矢田丘陵の麓にある小学校で校長として勤めていたとき、近くにある家庭菜園へ行かれる途中の元大和郡山市教育長の先生が、錦秋の景色が広がるあるとき、ふらりと私の学校に立ち寄られました。教諭時代から何かと貴重なご教示をいただいていた方でもあります。

真つ青な空のもと、鮮やかな紅葉・黄葉が広がる矢田丘陵を背にして佇む白い校舎を目にされながら冒頭のお話をいただきました。次の春に定年退職を控える私は、最後の勤務校をあらためて誇らしく思った次第であります。さて今から五〇年以上も

前、私が入学する三年ほど前の昭和四二年に、一条通り沿いの旧校舎から北側の小高い丘陵地に移った私たちの母校、奈良高校。入学当初は近鉄油阪駅から、またその後は新駅となった新大宮駅から毎朝徒歩で登校しました。当時は現在ほど住宅やマンションなどは多くなく、駅を降りてほとんど奈良の校舎を遠望することがで

きました。学校に近づくにつれ、きれいで新しい校舎が徐々に大きく目に入ってきます。

まさに生徒、先生、そして地域の人々から仰ぎ見られる理想的な場所に、奈良高校は位置していたといえます。三年間を通じて決して優秀な生徒ではありませんでしたが、奈良県屈指の名門校に通えたことは、私の人生の上で数少ない誇りの一つであります。

その母校が法蓮の地を離れ、今から一年前に平城・朱雀の地にあった元県立平城高校校舎へと移りました。母校は新しいステージに立ち、新たな歩みを始めています。ただ法蓮校舎に愛着を抱く私たちはやはり寂しさを禁じえません。また校歌にあった「佐保路にそひて よき環境に恵まれつつ」という歌詞はどうなるのだろうかと戸惑ったりも。

と同時に、奈良県有数の人気校だった平城高校は、統合という形になったのか、閉校を余儀なくされたのか詳しくはよくわかりませんが、いず

れにしてもなくなりました。同校のたくさん卒業生や関係者の方々には本当に申し訳ない気持ちで一杯です。

現役の奈高生、教職員の皆様方。

これまで平城高校が築かれてきた歴史や地域との信頼関係、関係者の方々の思いをも併せ含め、新しい奈良高校の歴史を構築していただくようお願いです。

二、ハンドボールに明け暮れた高校時代

現在、奈高同窓会「宝相華会」会長の重責を担っておられます瀬川雅数先輩。私は奈高で四年後輩のハンドボール部員でした。瀬川さんはタンデイで、プレーもキレイキレ、ポイントゲッターとして



活躍され、我々後輩一同の憧れの存在でした。当時は医学生として多忙な学業生活を送られている傍ら、土日や祝日に足繁く我々の指導に来校されていました。ときには鬼コーチとして、私たちをしょごき倒す怖い一面も併せ持つておられました。先輩の現役時の奈高は県予選を見事突破されインターハイも出場された県内でも有数の強豪校でありました。私たちも、その伝統に繋がるべく練習に明け暮れた毎日を送り、休みは確か大晦日と正月三が日だけだったかなと記憶しています。寒空の中、若草山の山焼きを練習後のグラウンドから見たことは貴重な思い出となっています。

そんな猛練習の甲斐あって県内の大会では、名門添上高校と常に一位・二位を争うライバル関係に。そして三年生の六月のある土曜日の午後、総決算であるインターハイ県予選の決勝が奈高のグラウンドで開かれ、宿敵添

高ハンドボール部を迎えました。しかし、結果は敗北、強烈な振り返りに遭いました。その後近畿大会へは出場しましたが、宿願のインターハイ出場ならず。同期で私たち部員を引く張ってくれた主将、蒲池久隆君の涙は忘れません。青春前期の一ページが終わった思い出でした。

ただその後、私自身は進んだ大学でもハンドボールを続け、教員になってからも三〇代半ばまで奈良県教職員ハンドボールチームの一員としてプレーを楽しみました。かつてのライバル添高出身の教員仲間達と多くの全国教職員大会に出場したことは、よき思い出として残っています。

三、三六年間の教員生活を経て

定年退職後、間もなく一〇年になります。

現在ハンドボールとはまったくご無沙汰になってしまったのですが、新たな生涯スポーツとして下手の横好きながらゴルフに精進しております。ハンドボールに勤しんだ

ときには、「練習は嘘つかない」という教訓を信じていましたが、どうもゴルフにはそれがあてはまらないようです。併せて県内北部の小中学校及び高校の退職教員六〇余名が参加するゴルフ同好会「奈良北部オールドテイーチャー会・NOT会」の事務局を担当し、年六回の親睦ゴルフコンペの運営にあたっています。同会には奈高出身の退職教員の方々が数多くおられ、とくに元平城高校教員で昭和四八年奈高卒の登 章さんには同事務局に多大な力を貸していただいています。

またご縁をいただき、奈良県教育振興会の企画事業部担当理事として、不定期ですが月に数回同会を訪れております。事務局は法蓮町の現在の奈良県総合庁舎内にあり、元奈良県教育センターがあったところ、東隣はリガール春日野（旧春日野荘）。六〇年近く前までは、一条通り沿いにあった奈良高校法蓮旧校舎があったところです。今も敷地内の一角には奈良高校の校訓等をしたためた石碑があり

ます。かつて奈良高校が敷地としていた場所に、不定期とはいえ通っていることに何かしらの縁を感じる次第です。

同会は現宝相華会副会長で、かつて奈良高校長及び御所市教育長等を歴任され、卓越した識見と経験をお持ちの上田貞夫先生が会長を務められている組織であります。現在、上田会長ご指導のもと、また奈良県教育委員会をはじめ県内各地方自治体及び近鉄グループHD、奈良交通、南都銀行など各種の企業様からのご支援をいただきながら、会誌「やまと」発行のほか奈良県教育振興及び県内青少年の健全育成に寄与すべく各種の研修会の実施や事業に取り組んでおります。

その理事研修の一環として、毎年秋には県内各地の由緒ある場所や有名社寺を巡っています。昨秋は天理市杣之



内町に新しく開村された「なら歴史文化芸術村」を訪れました。中でも印象的だったのは、二年半前の晩秋にお伺いした奈良市菩提山町にある正暦寺でした。旬を迎えた境内の紅葉を楽しみ、また奈高同期卒の大原弘信住職（同住職は奈高昭和四七年卒学年同窓会代表世話人も務められています）から有り難い法話をいただきました。事前打ち合わせに数度お伺いしたのですが、その際には奈高時代の数々の思い出話に花が咲きました。

末筆ながら、この拙稿を目にされました奈高同窓会の皆様方から、奈良県教育振興会に今後何かしらのご支援をいただければ幸いです。まことに有り難く存じます。何卒よろしくお願いいたします。

追伸

昭和四七年卒三年四組の同窓生の皆様方。お変わりございませんでしょうか。

還暦時に開かれたクラス会で次回の幹事を担当せよとのこと、引き受けましたにも

かかわらず諸事情と力不足で、未だに設定できておりません。ほんとうに申し訳ありません。

海外旅行好きへのきっかけとなった高校時代



杉本昌弘

(昭53年卒)

く、お詫びを申し上げます。今しばらくお待ちいただけますようお願いいたします。

りました。

一方、生徒としてはあまり優等生ではなく、朝の登校時にはぎりぎりの電車に乗っていたため、新大宮駅から徒歩にて最短何分で学校に到着できるかを競争しながら、まるで競歩のような通学をしておりましたので、いつも生活指導の先生にスピーカーで怒鳴られながら遅刻寸前に学校に到着する、といった毎日をご経験しておりました。

そして、授業の内容もほとんど記憶がなく、後に奈良県教育長や東大寺学園の校長を務められ、私が三年生の時の担任をしていただいた矢和多忠一先生が化学の授業で連呼

されていた「ローンペア（孤立電子対）」くらいしか覚えておりませんが、なぜか世界史の授業中に、授業内容よりも授業で知った海外の国々について、こんなにも様々な歴史や文化を持つ国はどこなところなのだろう、一体どんな人が住んでいてどんな食事をしているのだろうと、外国そのものへの関心の方が強くなってきていました。そして、クラシック音楽以外にも興味を持つ対象が、高校時代にもう一つ増えてしまいました。

その後、外国への思いが次第に強くなり、大学時代に初めてヨーロッパ諸国を巡り、今まで経験したことのない強烈な衝撃を受けました。それからは幾度となく海外に出かけるようになり、訪れた国ごとに違った感動をもらいました。そして、仕事で旅行業に携わった際には、旅行業務取扱管理者の資格も取得して海外旅行の手配を行うことも経験し、ますます海外への旅行頻度が高まりました。

海外の行き先は、アメリカ

カ、ヨーロッパ、オーストラリア、アジアと様々で、お隣の中国、台湾、韓国にも訪れました。旅の楽しみは、それぞれの国の独自の文化に触れ、素晴らしい景色や建造物を見ることはもちろんですが、日本とは全く異なる食事やお酒を堪能することも大事な要素です。フランス料理やイタリア料理がおいしいことは日本でもよく知られるところですが、ムール貝料理くらいしか日本では知られていないベルギー料理が大変おいしくて日本人の口にも合い、しかもベルギービールが種類も多くドイツ顔負けの味であることは、意外な発見でした。今上陛下が皇太子時代にお隣のオランダを訪問された際、おいしいレストランがあるベルギーにまで足を延ばされたということ、ベルギーのデュルビュイ(Durbuy)のレストランで聞いた時には、なるほどと納得したものです。このデュルビュイ地区のビールは生産量が少なく、生産された分が全て地域内で消費されてしまう

ため、日本の酒屋ではお目にかかることができません。ちなみに、スイスのワインも同様で、日本酒の純米吟醸のような味わいのおいしい白ワインが生産されていますが、やはり日本では容易に手に入れることができません。このように、日本ではなかなか味わえない料理やお酒を味わうことができるのも、海外旅行ならではの楽しみです。

また、海外での現地の方との交流も新しい発見があります。フランスの酒屋で、その夜にホテルで飲むワインを友人と二人で探していた際に、私はジーンズにトレーナーという格好で、友人はスーツ姿だったのですが、現地の方が友人に向かって「そんな格好でパリで行動していたら、スリのターゲットになるよ。」とアドバイスしていただいた際に、私が思わず「どんな服装ならスリに狙われないのですか。」と聞くと、すかさず私の方を見て、「あなたのよいうな恰好なら大丈夫。」と言われ、内心少々傷付きながら

も、ファッションの街と言われるパリも、日本人のイメージだけでは危ないと思いが知らされました。ちなみに、八年前に訪れたパリの地下鉄では、駅名などの多言語案内はなく、駅で唯一日本語のアナウンスがされていたのは、「スリに注意してください」でした。

ここ最近では、コロナウイルス感染症の拡大のため、二年半ほど自粛しておりますが、PCR検査も不要となっております

た国も増えてきたので、そろそろ海外に脱出したくてうずうずしております。こんなにも海外旅行好きになってもまったきっかけとなったのが、高校時代の世界史の授業だったということを、いまさらながら思い返して、懐かしいとともに、高校時代の感性豊かな時期に、いろいろなことに興味を持って接することが、その後に大きな影響を与えていることを、改めて感じました。

挨拶として、宝相華会会長の瀬川雅数氏の挨拶に続いて、新会員代表の吉村颯真さんが挨拶をした。

続いて祝辞を、奈良高校校長の前田景子氏が行った。

来賓紹介に続いて、議事進行について上田副会長を議長に選出し、①令和三年度事業報告、②令和三年度決算報告を事務局から、③令和三年度会計監査報告を監査委員の上杉氏が行った。④令和四年度事業計画案、⑤令和四年度予算案を事務局から、⑥令和五年度総会運営を昭和五五年卒業の山下成人氏が行った。⑦その他として百周年実行委員会の實光先生から説明があった。

閉会の辞を、小林俊彦副実行委員長が行い総会を閉じた。

記念講演として、昭和五四年卒業の薬石花房 幸福薬局代表 中医師・薬剤師の幸井俊高氏が演題『これから始める若返りー漢方健康長寿の秘訣ー』を行った。

令和四年度 宝相華会総会のご報告

岩井宏之
(昭54年卒)

宝相華会総会が二〇二二年八月二十八日(日)に、二年ぶりにホテル日航奈良で昭和五四年卒業の学年担当で開催された。

今回はコロナ禍での開催で、当初の四月開催を延期し八月の開催となった。また、

例年行っていた総会後の懇親会は中止とし、学年同窓会のみを総会後行った。

総会は、開会の辞を実行委員長の大久保昇紀氏が行い、続いて物故者の恩師、同窓生への黙祷を行い、宝相華会歌を斉唱した。

これから始める若返り ―漢方健康長寿の秘訣

幸井俊高

(昭54年卒)

「薬石花房 幸福薬局」代表
中醫師・薬剤師

筆者経歴…

奈良高校を卒業後、東京大学薬学部卒業、北京中医药大学卒業、米国ジョージ・ワシントン大学経営大学院修了、経営学修士MBAを取得。

一九九八年、中国政府より日本人として一人目の中醫師の認定を受ける。

二〇〇四年、日本経済新聞が選ぶ『日本の実力派たち』のひとつりに選ばれる。

これまでに漢方関連書籍を二〇冊以上執筆・出版しており、中国、台湾、韓国など海外での出版も多い。

現在、東京の帝国ホテル内で「薬石花房 幸福薬局」を営んでいる。日本経済新聞の一般向け健康

情報サイト「日経グッデイ」および医師・薬剤師向けの医療情報サイト「日経メディカル」、薬剤師向け医療情報誌「日経ドラッグインフォメーション」にて、漢方コラムを長年にわたり連載中。

□漢方とはどういう医療か

まず漢方とはどういう医学か、どういう医療か、ということについてお話しします。病気には、かならず「原因」があり、「結果」があります。

たとえば花粉症だと、病気の「結果」は、くしゃみ、鼻水、目の痒みなどの症状です。そして「原因」は、アレ

ルギー体質です(図1)。

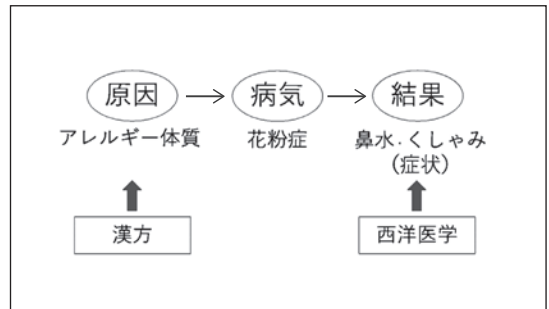


図1

花粉が「原因」ではないかと思う人もいるでしょうが、花粉は単なる「引き金」です。なぜならば、花粉がたくさん舞っているところにおいても、くしゃみや鼻水が出る人もいれば、まったく平気な人もいるからです。アレルギー体質という「原因」がある人にも、くしゃみや鼻水という「結果」つまり症状が表れる、と漢方では考えています。

日本の医学、医療は、もともと中国などから輸入された漢方医学でした。そこに江戸時代の頃からドイツやオラン

ダから医学が入ってきました。そして明治政府は、このドイツやオランダからの医学を日本の国の医学として採用し、今日の医療体系があります。

さらに、これを西洋医学と呼ぶとして、その西洋医学が得意なのは、「症状」の緩和です。西洋薬は、服用すると、すぐ効きます。花粉症の場合、花粉症の薬を飲むと、すぐに鼻水が止まり、くしゃみが出なくなります。しかし薬を飲まないと、あるいは薬が切れると、症状が再発します。西洋医学は対症療法で症状をコントロールするのが得意ですが、「原因」が残っている限り、当然症状は再発します。

一方、漢方が得意なのは、「原因」の治療です。花粉症の場合だと、アレルギー体質の治療、アレルギー体質の改善が、漢方の得意分野です。漢方薬は、飲んですぐ症状が抑えられるというものではなく、飲み続けるうちに症状が出なくなる、という薬です。飲んですぐに鼻水が止まり、

くしゃみが出なくなるというよりは、しばらく飲み続けるうちにアレルギー体質が改善され、翌年の花粉シーズンには鼻水もくしゃみも出なくなり、西洋薬も漢方薬も必要なくなります。

もうひとつ、不眠症の例を見てみましょう(図2)。不眠症の場合は、寝つきが悪い(入眠障害)、あるいは寝ている途中で目が覚める(中途覚醒)などの症状が、病気の「結果」です。そして、「原因」には、不安を感じやすい体質、いらいらしやすい体質、ついつい思い悩んでしまう体質、オン・オフが苦手な

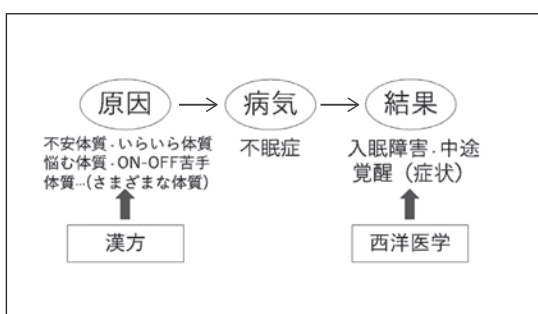


図2

体質、など、さまざまな体質があります。

この不眠症に対し、西洋医学では睡眠薬を使って、人工的に患者さんを眠らせます。睡眠薬が神経伝達物質等に直接働きかけるので、患者さんの体質に関係なく効きます。ただし、眠れない「原因」が解決しない限り、いつまで経っても睡眠薬なしで眠れるようになるわけではありません。

一方、漢方は、なかなか眠れない体質を改善することにより、自然な眠りを取り戻していきます。飲んですぐ眠くなるのではなく、毎日朝晩と漢方薬を飲み続けるうちに、夜になると自然に眠くなるという「自然な眠り」を取り戻します。

体質は、教科書的な基本となる体質だけで一二〇種類あります。実際には、一二〇のうちAという体質とBという体質を兼ね備えている場合なども多く、現実には、一人一人それぞれ異なった体質を持っていると言えます。そして、それを見極めるのが、私

たち漢方に携わる者たちの仕事です。漢方薬で体質を治療、改善して、病気を「原因」から治すのが漢方です。

□老化防止と漢方

この「原因↓病気↓結果」の関係は、老化にも当てはまります。

漢方には、よく知られる葛根湯のように病気の治療に使われるもののほかに、歴代の皇帝が飲んできたような、不老長寿、若返りの漢方があります。老化防止は古来、漢方の得意分野なのです。

先ほどの「原因↓病気↓結果」の関係に「老化」を当てはめると、図3のようになります。「原因」は年齢、つまり加齢で、「結果」は、脳の衰え、骨や足腰の弱体化、聴力の低下、肌や髪の毛の質や量の劣化などの老化現象です。

しかし、年齢が「原因」とはいえ、同じ年齢でも若々しく元気な人と、年相応の人、そして老けて見える人や、慢性的に体調不良や病気の人がいます。つまり、老化の「原

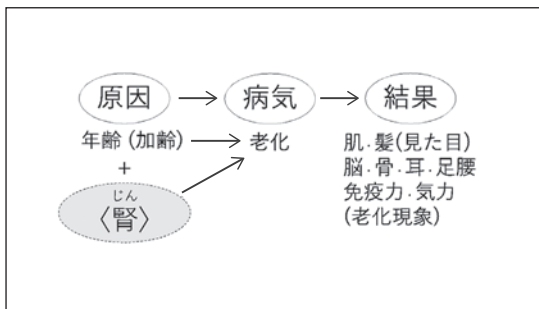


図3

□〈腎〉とは

それが、〈腎〉です。〈腎〉は腎臓の腎ですが、腎臓という内臓ではなく、五臓六腑（人体の機能的単位）のひとつである〈腎〉です。

では、五臓六腑の話をしてまず、東洋医学を理解する上で欠かせないのが、陰陽五行の概念です。陰陽五行は漢方の根底に流れ続ける基本思

想です。陰陽は宇宙の万物に働くもので、すべての事物は陰と陽という相反する性格のものに分けることができるという概念です。あらゆる世界に中心があるわけではなく、普遍的なものや理想像があるのではなく、バランス感覚で事象をとらえます。陰と陽とは互いに対立し合い、同時に助け合うことにより、バランスが保たれます。

つまり陰陽は、バランスを重視する考え方です。どちらかが重要なのではなく、両方も重要という捉え方です。たとえば、昼と夜、あるいは女性と男性のように、どちらかが重要という関係ではなく、どちらも重要であり、大事なのはバランス、というのが陰陽です。まさに中心のない世界であり、ベースには中庸の思想があります。

□五行

そして陰陽よりもう少し複雑なバランス関係が、五行です（図4）。

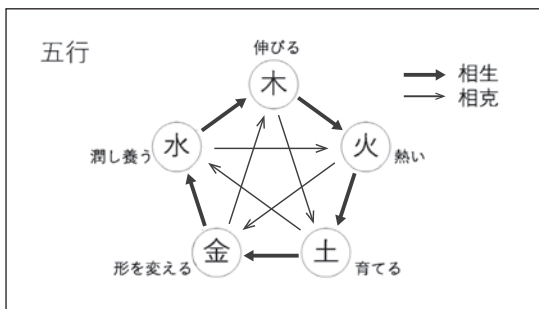


図4

五行は万物を組成する元になる要素で、万物を木・火・土・金・水の五つに分類し、個々の性質や相互の関係で世界をとらえる哲理です。五行は互いに促進し合い、また抑制し合うことにより、全体の安定や均衡が保たれます。

五行の一つめの「木」は、木の枝や根ように困難を克服しつつ巧みに「伸びる」性質のもので、二つめの「火」は、火のように「熱い」性質で上に昇るものです。三つめの「土」は、大地の土のように動植物を「育てる」性質で、新たな生命を生むものです。四つめの「金」は、金属

のように重く沈み「形を変え
る」ものです。そして五つめ
の「水」は、水のように万物
を「潤し、養う」ものです。
この五つは、さまざまな分
野、学問、生活などに大きな
影響を与えています。たとえ
ば、太陽系の惑星の名前にも
ついていきますし、週の曜
日も、この五行に、太陽の
「日」と「月」を加えた七つ
です。

そしてこの五つの相互作用
により、さまざまな世界が均
衡を保っている、というのが
五行です。

相互作用には二つあり、ひ
とつは、互いに促進し合い、
補い合う「相生（そうせい、
そうじょう）」の関係です。
相生の関係は、図4の時計回
りにあり、木は火を生み、火
は土を生み、土は金を生み、
金は水を生み、水は木を生
む、と相手の力を増やす関係
です。木が多ければ火の勢い
が盛んになる、火が燃えると
灰となり土を生む、土の中に
金属（鉱物）がある、金鉱で
水が生じる、水は木を育て
る、ということなのです。

もうひとつは、互いに抑制
し合う「相克（そうこく）」
の関係です。図4においては
一つ飛ばしでつながってお
り、木が多すぎると土が枯れ
る、土が多すぎると水をせき
とめる、水は火を消す、火は
金属を溶かす、金属（刃物）
は木を切る、と相手の力を抑
える関係です。

□五臓

漢方では、陰陽五行の考え
方を人の生理や病理に適用し
ています。陰陽は、寒熱や虚
実、表裏のバランスに、また
五行は五臓のバランスのとら
え方に発展しています。これ
らのバランスが崩れると病氣
になり、崩れたバランスを漢
方薬で調整することにより、
病気を治します。

五臓は、人体を機能的単位
に分類したものです。五臓は
肝・心・脾・肺・腎の五つ
で、それぞれ五行の木・火・
土・金・水の性質をもつ機能
的単位です。内臓ではなく、

機能的単位である点特徴で
す。たとえば肝は、五行の木
に相当し、木の枝や根のよう
に全身に広がって諸機能の調
節や情緒をつかさどる機能で
す。西洋医学的には、自律神
経系や肝臓などが含まれます
（図5）。

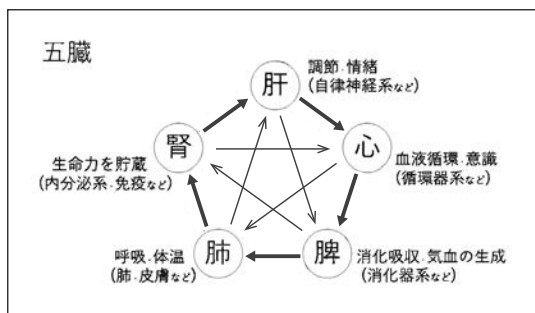


図5

そして「腎」は、五行の水
に相当し、水のように人体を
潤し、生命力を貯蔵する機能
的単位です。西洋医学的に
は、ホルモン内分泌系や免疫
機能が含まれます。
五臓は、目に見えない機能
バランスです。昔からこの五
臓の概念があったところに、
あとから西洋医学が入ってき

て、内臓の名前を決めるとき
に、この五臓の名前を借用し
てしまったため、ややこしく
なってしまうました。

最近の宇宙物理学による
と、宇宙全体の中で目に見え
るもの（光や電波で見えるも
の）は、たった5%で、残り
の九五%は目に見えないそう
です。人間の体も、内臓とか
検査結果とか、そういう目
に見えるものはわずか、この
五臓とか、気の流れとか、そ
ういう目に見えないものがた
くさんあります。

□「腎」の機能

「腎」の機能をまとめる
と図6のようになります。
「腎」は、生命力を貯蔵し、
人の成長、発育、そして適齡
期には生殖をつかさどり、さ
らに健康維持や、老化防止
（健康長寿）をつかさどりま
す。いわば、「いのち袋」の
ような存在です。図7は、
「腎」の概念図です。「腎」
は、生命力・若さ・免疫力を
「貯蔵」し、食べ物や呼吸か
ら生命力を「補給」し、脳や

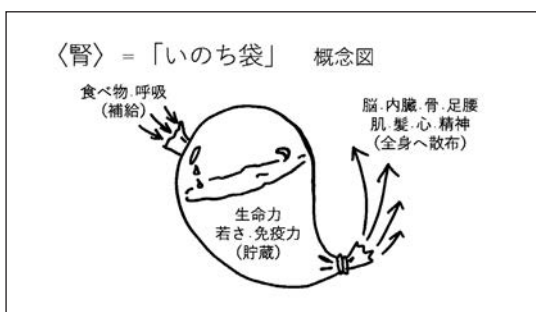


図7

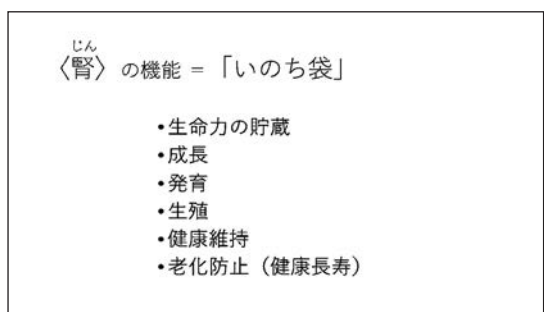


図6

内臓、骨、足腰、そして肌、
髪、さらに心や精神など「全
身に散布」する存在なので
す。
そして「腎」を補強する方

法の角度は、以下の四つです。

A 「いのち袋」の中身を増やす

B 「いのち袋」を大きく柔らかく

C 「いのち袋」の出口を柔軟に広げる

D 体質に合わせてメンテナンス

□〈腎〉を補強する六つの方法

最後に、日常生活の中でできる六つの〈腎〉補強法についてお話しします(図8)。

〈腎〉を補強する6つの方法

- ① 食べ物 旬の食材+補腎食材
- ② 呼吸 腹式呼吸
- ③ 脱力 a. 体の脱力 b. 心の脱力 甘受 学則不固
- ④ 姿勢 骨盤 肩甲骨 ちくわ
- ⑤ 遊び = 感性を磨く ふだん使わない心身を使う 左右対称
- ⑥ 瞑想 無心の瞑想 感謝の瞑想

黒豆	鯛
黒ごま	鰻
山芋	なまこ
プロッコリー	栗・くるみ
カリフラワー	カシューナッツ
キャベツ	ブルーベリー
椎茸	レーズン
枝豆	ブルーベリー

図8

①食べ物

まず「いのち袋」の中身を増やすために、〈腎〉によいものを食べましょう。基本的には、旬の食材、そして、〈腎〉を補う食材(補腎食材)です。補腎食材の一部を図8に挙げました。土に蒔いたら芽が出るものや、黒いものが多く含まれます。

②呼吸

食べ物のほかに、もうひとつ、「中身を増やす」ものがあります。それは呼吸です。腹式呼吸でたっぷり空気を吸い込みましょう。朝起きたときや、寝る前、電車の中などで、一〇回でもいいので、深くゆっくりと腹式呼吸をして、意識して空気を体内に入れるといいでしょう。

③脱力

「いのち袋」を大きく柔らかくしたり、出口を柔軟に広げたりするためには、脱力が有効です。無駄な力が入っていると、〈腎〉が硬く小さくなります。

脱力には、「体の脱力」と

「心の脱力」があります。まず体の脱力については、私たちの体には、意外と無駄な力が入っていることを知ることです。たとえば、肩に力が入っていたり、拳を握りしめていたり、作り笑いなどで顔面に力が入っていたり、歯をくいしばっていたり。そういうことに気がついたときに、脱力する習慣を作りましょう。寝る前や、朝起きたときに全身脱力するのも効果的です。

次に、心の脱力も大切です。心にも意外と余分な力が入っています。いらいらしない、あせらない、こだわらない、これだけでも心の無駄な力がぬけます。「甘受」という言葉があります。甘んじて受け入れる、という意味です。甘んずるとは、与えられたものをそのまま受け入れるということでも受け入れるということでも、自分で変えられない現状、たとえば環境や人の心は、そのまま受け入れてしまおうということ。環境や人の心を自分の都合のいいように変えることなど、できません。

「学則不固」は、孔子の「論語」の言葉です。学べばすなわち頑なならず、と読みます。しっかりと学べば自分の考えに凝り固まらず、心が柔軟になり、人に優しくなれる、という意味です。逆に何も学ばないと、視野が狭く、自己中心的に、目立ちたがりになります。井の中の蛙です。そうではなく、「聴き上手」になれば、心は大きく脱力できます。四天王の「多

聞天」の境地でしょうか。憧れの存在ですね。

④姿勢

姿勢がいいと、おなか広がり、内臓が元気に働きます。「いのち袋」が大きく柔らかくなります。

押さえどころは、骨盤と肩甲骨です。立っているときも座っているときも骨盤を立て、左右の肩甲骨で竹輪を軽く挟むように胸を張れば、いい姿勢になります。くれぐれも肩の力は脱力のままです。

⑤遊び II 感性を磨く

遊びとは、仕事や日常と関係のないことをすることで。それにより、感性が磨かれ、「いのち袋」出口が柔軟に広がります。何でもいいのです。文楽や能や落語を楽しんだり、美術館や社寺庭園に足を運んだり、ちよっと遠くまで散歩したり、あるいは星空観察、登山、ふだん料理を作らない人は調理、などなど、ふだん使わない心身を使うことにより、心身が刺激され、潜在能力が活性化されま

す。

体の左右を等しく使うことも、いい刺激になります。ふだん使わない側を使うのです。たとえば、いつも右手で歯を磨いている人は、今日は左手で磨いてみてください。いつも右手で鍵を開けている人は、たまには左手で鍵を開けてみてください。靴下やズボンはく順番も、左右逆にしてみてください。けっこう体に刺激になります。これを「左右対称ごっこ」と呼んで楽しんでいきます。

⑥瞑想

瞑想とは、心を静めて、無心になることです。さまざまなたな瞑想があります。たとえば、ステイプ・ジョブズの「マインドフルネス」は、今という時間を大切にすることを。座ってでも寝転がってでもかまいません。基本は「無心の瞑想」、つまり心を空っぽにして何も考えないことです。何もないところから新しいものが生まれます。

「感謝の瞑想」も、貴重な時間です。心を静め、お世話

になった人や、なっている人たちに感謝します。家族、両親、ご先祖、先立った友だちや先生方、仕事関係で関わった人たちに感謝します。最後に、「きのう」会った人や、

メールや電話をした人など、そして、「今日」会う人や、メールや電話をする人、夜に飲みに行く仲間などの顔と名前を思い浮かべて感謝します。こうして、今と、過去と、未来に感謝します。過去に感謝、今は甘受、未来にプラス思考です。

私は毎朝、起きてすぐ仰向けになって瞑想しています。早ければ三分くらいで終わります。心が脱力し、柔らかい心、(腎)が出来上がってきます。

変化には大きく二つのタイプがあります。ひとつは水と氷のように行き来できる変化、もうひとつは生卵とゆで卵のようにいったんゆで卵になると生卵には戻れない変化です。最初に話した花粉症、不眠症などは、水と水の関係のように、体質改善できれば

元に戻れる変化ですが、老化は、ゆで卵、元に戻れない変化です。私たちは年齢とともに、少しずつゆで卵になってきてい

還 暦

早いもので、今年還暦を迎えた。私事ながら、私の父は六一の歳で早逝した。亡くした当時二八歳だった私に六〇歳になった自分の姿は想像がおよぶものではなかったけれど、それ以来どこかに自分も六一の歳に人生を終える予感を抱きながら生きてきた気がする。

そのゴール(?)を間近に控え、さて今の私はというと、すこぶる健康の上、大した悩みもなく、どうやら六一歳から先にも人生が続くことを否が応でも認めざるをえないし、何より、もうすでに

ます。今からでも遅くはありません。カチカチのゆで卵になる前に、ゆで卵になるのを遅らせる生活、(腎)を補強する生活を始めてください。

山下 成人

(昭55年卒)

綿々とその先のスケジュールが埋りゆく。「ついに人生のあらゆる厄介ごとから解放される」という怠けた幻想を捨て、老いに抗いながらも、生まれ変わったつもりで第二の人生を模索する区切りということかもしれない。

その六一歳を迎えた最初の大きな予定のひとつが、四月に開催される二〇二三年度宝相華会総会だ。諸々故あって柄にもなく総会実行委員長を引き受けることになった。

そんな事情も加わり、このところ宝相華会、奈良高校に

携わる色々な機会に参加させていただく機会が増えた。

見渡すと、実は我々実行委員会の還暦グループが最若手だったりして、一周回ってまた新兵卒から始まるような、ちよつと新しい感覚を覚えるし、また瀬川会長はじめ、諸先輩方が会の内外を問わず澁刺とご活躍されているお姿から大いに刺激を頂いている。

あと三ヶ月余りに迫った肝心の総会準備については、進むにつれ多岐にわたるやるべき事柄が明らかになり、委員会一同の脳裏に正直不安がよぎる。(と言いつつ、最後には酒盛りが始まる)

おかげで今年は特に懐かしい奈良高校時代の友人達とたびたび顔を合わせる。「お前変わってないなあ」「いや、お前もな」

変わってない訳はない。でも、確かに面影はそのままで、皆でワイワイ昔話に花を咲かせると、気分はそのまま一〇代のあの頃に簡単に若返ってしまう。

なぜだろう昔の友人達はいくつになっても歳を取らな

い。

本当に不思議だと思っ
そういえば数年前、大学の
友人の知らない高校の同窓会
に、どういう訳だか飛び入り
で参加することになった。

その時、たしかに大学の友
人は例の如く二〇代の学生時
代と全く変わらないのに、あ
との人達が普通におじさんで
おばさんだったことに大いに
衝撃を受けた。

おそらくこの感覚は私だけ
のものではないと思うし、そ
の現象に何らかの学説名がつ
いているならば非教えて頂き
たい。(いずれこの件につい
ては某NHKの幼女に叱られ
る番組で取り上げられると確
信している)

学生といえは、先日、宝相
華会のホームページに、ある
お便りをいただいた。

現在、徳島大学医学部に通
う卒業生の方からで、奈良高
校同窓会を、ひいては奈良全
体を若者から盛り上げて行き
たい。何かできることがあれ
ば是非協力したい、という主
旨の文面だった。

若いのに大したものだど、
心から彼の偉いなる志に感服
した。

と同時に四〇年前大学生
だった頃を思い起こす。

親元を離れ、福岡の大学の
寮で始まった学生生活は、新
しい出来事や出会いに溢れて
最高に刺激的だったけれど、
新しい環境、新しい人間関係
に順応するのに一杯いっぱい
で、高校時代や奈良の故郷の
事を振り返る余裕はなかつ
た。

インターネットやホーム
ページなど想像もつかなかつ
た時代、私を含めた大半の学
生はテレビすら持たなかつ
た。

母校の様子どころか、奈良
の情報すら届かない。

唯一母校との絆を繋いだ
あろう宝相華会会報誌も学生
寮には届かなかつた。

新しい土地に馴染むほど
に、奈良との関係は希薄に
なつてゆく。

とどのつまり、高校時代に
芽生えた、菅原道真と飛梅の
如く思えた私の淡い初恋も露
と消えた。

寮の公衆電話につらなる長
蛇の列を言い訳にはしたくな
い。

嗚呼、ただあの時、宝相華

高校時代を思い返して

楠木博一

(昭55年卒)

コロナ禍において宝相華総

会の開催がずれ込む中、還暦
を迎えた私たちの学年が準備
をする担当となり、微力なが
らお手伝いをさせて頂いて
おります。

昨年は母校の移転も決ま

り、最後の校舎見学の機会を
作っていただいた「ホームカ
ミングデー」にも参加させて
いただき、同級生達と久しぶ
りに会うことが増えるばかり
でなく、懐かしい高校時代の
教室に入ることも出来、四〇
年以上前の様々な事を思い出
しました。

今思えば奈良高校での三年
間は、高校卒業後の人生にお
いても非常に多くの影響を与

会会報誌さえ届いていれば：
(購読料を払わなかつた、私
が悪い)。

えてくれたと感じます。

中学から始めた運動部での
活動を、何の躊躇いもなく継
続するために選んだ部活は、
思ってもいなかった真剣なも
ので、監督、OBが毎日毎日
厳しく指導してくださる超体
育会系での日々でした。辞め
ることはばかり考えていたにも
関わらず、部活と体育の授業
も出来ない怪我を負ったの
に、そこからは早く戻ること
ばかり考え、少し癒えること
真つ先に練習に復帰していま
した。

高校生活の中心は間違いな
く部活で、正月も三日からは
練習が始まったと記憶してい
ます。

休みたい、遊びたいと思
いながら先輩、後輩と共に集
団意識も芽生えていたのか、脱
落することができない使命感
みたいなものがありました。
よく考えると監督の先生も
ずっと休みなく指導していた
だったことに気付いたのは、
社会人になってからでした。

高校三年間で自分として納
得できる結果で終われず、大
学でも部活を続けた程気持ち
が入っていました。結果的に
は就職も関連した方向へ進み
ました。

就職して最初、研修として
地方の工場で毎日、現場で立
ち仕事をしていた時も、朝早
いことや、夜遅いことが続く
時も、あの練習に比べたら全
く大した事ないと頑張れたの
を思い出します。

その他にも社会人として組
織で業務を進めて行く中で、
忍耐力・継続力・コミュニ
ケーション能力・他人を思い
やる気持ち等、この時の経験
がかなり役に立ったと感じて
います。

監督であった恩師には結婚
の際に仲人もお願いしまし

た。

高校時代の先輩、後輩との繋がりはその後も続いていて、今もとても大事にしています。

部活以外の同級生とも、親には言えないことも含めて本当によく遊びました。正に青春でした。(彼らは帰宅後すっかり勉強もしていた事は大学入試が終わり、自分は浪人と決まった時に初めて気付きました。)

コロナで少し途絶えてしまいました。今も継続して節目ごとに会って悩みや愚痴を聞いてくれる同級生の存在は本当にありがたいです。

高校二年、三年と担任していただいた先生にも本当にお世話になりました。

修学旅行の夜、部屋から部屋へと渡り歩いていたことを翌朝指摘された時は、どこで見てた?と恐怖を覚えました。が、受験に際してもしっかりと確かな指導いただき、隠し事など絶対出来ないかと観念していたものでした。

卒業後もお会いする度に気に掛けてくださって、五〇歳

を超えて初めて海外単身赴任することになった時も、優しく応援していただきました。両先生とも、続けて早くしてお亡くなりになられたのが残念でなりません。

このように奈良高校での三年間は、私のその後の人生にも多く関わっています。そして楽しい三年間でした。過去に戻るなら、高校時代に戻りたいとよく思いました。

今も奈良に住んでいるというところもあり、近辺に在住の方々との付き合い中心となりますが、国内外に散らばっている同窓の方々が帰省された折に集まる機会も非常に楽しみです。

令和五年の宝相華総会でも多くの同級生と会えることでしょう。人生一〇〇年時代と言われる中、今後も繋がりを大切に大事にしていきたいと思えます。

ちなみに妻は高校の同級生です…。

母校からいただいたご縁



正田 進一
(平7年卒)

寒さも和らぎ、春を感じ、今年も奈高生が世界に向けて巣立っていく季節を感じております。宝相華会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は平成七年に卒業いたしました。ちょうど創立七十年を迎えた頃です。百周年を間近に控えている現在を思うと、年月の早さに驚かされま

す。私にとって奈高は間違いなく今ある自分の原点を作ってくれたところ。もし人生の中で過去に戻れるならば、「高校時代と答えるでし

ょう。私にとって奈高は間違いなく今ある自分の原点を作ってくれたところ。もし人生の中で過去に戻れるならば、「高校時代と答えるでし

う。私は軽音楽部と柔道部を兼部していました。特に、部長の役をいただいた軽音楽部の活動が一番思い出に残っています。当時はまだ軽音楽部に対して厳しい眼差しで見られていた時代でもあり、コンサートなどバンド活動を進める上でも簡単には進まない時代でした。その中で顧問の先生と一緒に、私が企画書や運営計画や予算を作り、体育館や音楽室などを使うために、担当の先生方にその説明とお願いに回ったことを覚えて

います。厳しい指摘を受けながらも、しっかりと説明と修正をして、練習や本番でもしっかりと部員一丸となって運営できるような雰囲気作りをする。この経験が大学時代はもちろん、社会人になった後でも、そして今の奈良県議会議員としての活動の中でも生き

ています。

また、私が高校三年生の時の校長先生は堀井清市校長でした。それから約二十一年経ち、私が初めて政治の世界で秘書として仕えた国会議員が堀井校長の御子息でした。これは秘書になった後に知ったことであり、奈高からいただいたご縁としか思えません。このご縁があつて、今の私があると思います。

現在は奈良県議会議員という役目を拝命している関係で県の立場から母校を考える機会にも恵まれました。昨年は県議会の視察として、朱雀校舎の奈高にも伺うことができ、和感と寂しさを感じたことを覚えています。しかし奈高は奈良県を、日本を担う人材を育てなければいけない大切な高校です。私はその大切な役割と、諸先輩方から繋がる想いをこれからの奈高生にも伝えるような高校であってほしいと願っています。「自主創造」。これを実践するために、安全に通える、自由に学ぶ環境が必要です。その大切

なものを守るために、卒業生という立場からも、これからも環境作りに努力していきたくと思っています。皆様から

のご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
(現・県議会議員)

変わっていくもの、 変わらないものであるもの

真田 樹

(平31年卒)

今、この原稿を書きながら、タブレットの画面に映るカタル・ワールドカップの熱い戦いを見届けています。昨日も高校時代の友人たちと電話をしながら、試合の行方を見守っていました。こんなことをしていると、受験勉強そっちのけでロシア・ワールドカップに夢中になっていた高校三年生の自分が、ふと蘇ってきます。当時もやはり、その友人たちと電話をしながら、私は夜遅くまで多くの試合を観戦していました。あの頃の自分と今の自分は、ちっとも変わっていないかと思ひもします。しかし、よく

よく考えてみれば、各国の選手たちは当時に比べて今や半数ほど入れ替わっていることに気が付き、確実に四年の時を経たのだと、その時間の重さを痛感するのです。
そこで、本当に自分は変わっていないのだろうか？と問いかけたとき、やはりそうではない、という思いに至ります。高校時代の自分は、友人や先生方など周囲の人たちや環境に恵まれ、部活動に熱中し、学校行事を楽しみ、充実した毎日を過ごしていました。そんな三年間ではありましたが、確固たる目標を見据えることができなまま大学

入試を迎え、思うような結果を得られず終わってしまいました。しかしこのような苦しい経験は、自分を見つめ直すきっかけとなり、後には私を教職の道へと導いてくれることになりました。

昨秋私は、卒業した法蓮の地ではなく、現在の奈良高校が所在する朱雀の地で教育実習を受けさせていただきました。校舎こそ違っていました。そこで学習や学校行事に生き生きと取り組む奈高生の姿は、あの頃の自分たちと何一つ変わっていませんでした。さらに、それぞれが積極的に工夫を凝らして活動する姿を目にし、「自主創造」の校風は確かに生き続けているのだと強く心に感じました。また、お世話になった先生方や、実習生としては、ともに高校時代を過ごした懐かしい同級生だけでなく、平城高校を卒業した同級生たちとの新たな出会いもありました。四年前には別々の場所で過ごしていた者が同じ場所で一つとなり、同じ志をもって実りある三週間を過ごせたことは大

変感慨深く、私にとつての奈良高校はより豊かなものとなりました。

奈良高校が、法蓮学舎を閉じて朱雀学舎で新たに生まれ変わるという話を、私は在学中に知りました。当時は、少なからず複雑な感情になったものです。しかし、高校時代の全てが詰まった校舎がなくなってしまうということ、慣れ親しんだ風景が失われてしまうということを、私は自分なりに考え、受け止めていました。

卒業式当日、総務委員長であった亀田峻さんの答辞の一節が、私の気持ちを改めて明確なものにし、前に進ませてくださいました。

「プライスカット前のガソリンスタンドが、いつしかコンビニへと変わっている。ある日登校してみたら、チャイムの音が変わっている。昨日まで体育をしていた体育館には今はもう入れない。形あるものは、いつかはなくなる。しかし、物質が消えてしまっただとしても、私たちが奈良高

校で過ごしたという記憶は失われることなく、永遠に生き続けるでしょう。」

今、高校生活の真っ只中にいる皆さん、自分の歩んでいる世界は、どんな場所においても、どれだけ時間が経っても、自分の中にずっと存在し続けるかけがえのないものです。変化していくことに寂しさを覚えすぎず、恐れすぎず、自分の足でしっかりと立ち、自分の人生を力強く歩んでいってほしいと願います。そして、私自身もそうありたいと思っています。

今春私は、奈良県公立高校の教員として教壇に立つ前の一年間、必要な知識や実践力を積み上げるため教職大学院に進学します。今の自分に何ができるのかを常に問い続け、学び続けていく姿勢を忘れず、日々精進して参ります。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいたことに、心より感謝申し上げます。

東京支部だより

令和四年度東京支部総会

東京支部長 阪本清人

(昭43年卒)

令和四年度宝相華会東京支部総会は、十一月十二日(土)、恒例の東京霞が関にある法曹会館で開催されました。

コロナ禍のため三年ぶりの開催となりましたが、予想を上回る七十四名の参加がありました。

また、来賓として奈良高校から前田校長と宝相華会担当



の森島先生、宝相華会本部から瀬川会長と谷井副会長がご出席くださいました。

第一部は谷口律子さん(昭和五十二年卒)の司会で行われ、開催されなかった三年分の議事が承認されました。

前田校長からは奈良高校の近況報告や、法蓮校舎でのホームカミングデイの様子、移転した朱雀校舎の紹介をしていただきました。瀬川会長からは宝相華会総会の報告や本部の活動、創立百周年記念事業への取り組みについてお話しいただきました。

第二部は、林真理子さん(昭和六十二年卒)の司会で、平井景さん(昭和六十二年卒)のトークと他二名のトリオによるオリジナル曲の演奏会でした。平井さんは、今

をときめくドラママー、作曲家、プロデューサーで、NHK「まいにちスペイン語」や「美の壺」のテーマ曲なども制作されています。また前夜の春日若宮式年建て替奉祝コンサートにも参加され、お疲れのところ東京支部総会にかっつけてくださいました。軽快なトークと、法蓮校舎からの眺めをイメージして作曲されたオリジナル曲の演奏などに、聴衆は大いに魅了されました。



第三部は中安理恵さん(平成十一年卒) 司会の懇親会で、最年長の野澤純子さん(昭和二十九年卒)のご発声による乾杯が始まりました。卒業年次を超えた話の輪が広

がり、懇親も深まって大盛会となりました。

コロナ禍での総会開催については、懇親会抜きの開催も検討されましたが、今総会は懇親会も開けてよかったですと思います。

最後に、恒例のことですが参加者全員で奈良高校の校歌を合唱してお開きとなりました。

大阪支部だより

三年ぶりの

大阪支部総会・懇親会

大阪支部 幹事長 橋本幸一

(昭48年卒)



二〇二二(令和四)年一月一日(金)、第四七回宝相華会大阪支部総会・懇親会は、宝相華会瀬川会長、奈良

高校前田校長、森島総務部長、「懐かしき恩師」谷垣先生を迎え、一〇名をこえる会員の皆様のご参加のもと、シエラトン都ホテル大阪で三年ぶりに開催することができました。

当初はコロナの影響が残り、どのくらいの参加人数に



なるのか不安でしたが、学年幹事や会員の皆様呼びかけでいただいたおかげで、当日は卒業年で昭和二〇〜三〇年代で約三〇名、昭和四〇年代で約二〇名、昭和五〇年代から平成世代で約六〇名と、幅広い世代の皆様のご参加がありました。

坂本元（55年卒）さんの司会で始まった総会では、最初に亡くなられた会員の方々に哀悼の意を表して黙祷を捧げました。開会挨拶で、谷井浩支部長（46年卒）は、一〇月に開催された奈高の「ホームカミングデー」にふれ、かつては「法蓮校舎」の三年生の教室から、大和三山をはじめ大和平野を一望することができたが、当日見えたのはビルや建物の広がる景色だった。しかし、そこで過ぎた懐かしい思い出は、消えることなくそれぞれの心のなかに残っていくものだと話されました。

瀬川会長（43年卒）は、八月に行われた本部の総会の紹介とともに、奈高創立一〇〇周年事業への支援・協力につ

いて述べられました。とくに、二〇二二年四月に移転した朱雀の地に、法蓮の地にあったモニュメントを移動させるなど、新しい教育環境の整備が求められており、会員の皆様のご支援・ご協力について要請がなされました。

前田校長は、この四月からの、新しい朱雀の地で、奈高生が学習や学校行事、部活動を活発に行い、生徒がさまざまに分野で表彰されるなど、高い評価を得ていることが紹介されました。また、これまでコロナの影響で行えなかった文化祭（青丹祭）や体育祭を、二年半ぶりに開催するこ



とができるようになり、多くの保護者の方が参観されたこと、日常の学校生活が戻ってきていることが述べられました。そして、久しぶりに全校で使えるようになった体育館には、手縫いの刺繍の入った緞帳や校歌などの額縁が整備されたことなど嬉しい話を聞くことができました。

総会の議事に続いて、「懐かしき恩師」としてお招きをした谷垣康先生のご講演がありました。大阪支部では、この間総会においてお世話になった恩師の皆様にご講演をお願いしていますが、本年度は、昭和五三（一九七八）年から六年間、国語の教師として指導された谷垣康先生に来ていただきました。55年卒にとっては、サッカー部顧問に就任された二年目に本校を近畿大会準優勝に導くなど、部活指導の面でも大変お世話になりました。「奈高の教育」をテーマとした講演は、新任で赴任された一九七八年当時のヒット曲や歌手を紹介し、「皆さんにとっては高校時代はどのようなものでした

か」と問いかけから始まりました。多くの人は「自分の夢や希望」をもって生きていきますが、しかし、夢や希望をもつてたくましく生きることが出来るわけでないし、努力が必ず報われるわけでもない。そんなとき、自分の進学や就職の進路を、それぞれが歩みながら、最後はふりかえることができる高校生活、先輩や友達の姿を思い浮かべることができ、それが私の伝えたい「奈高の教育」です、と述べられたのが印象的でした。最後に、谷垣先生は、卒業生の前でお話が出来たのは「うれしいことです」と感謝を述べられ、ぜひ亡くなった恩師を思い出し、恩師の思い出を語ってください。そうすることでその恩師が「生きる」ことになるという話と「心に残るものでした。谷垣先生には、大変お忙しいなか貴重なご講演をしていただき本当にありがとうございます」と話しました。

その後休憩をはさんで、山下成人（55年卒）さんの司会で始まった懇親会、オープニ

ングはコール宝相華の清水幸夫（39年卒）さんの指揮で宝相華会の会歌斉唱。続く、乾杯のご発声は、橋本武一（39年卒）前支部長。橋本前支部長は二〇二一年の一月まで大阪支部長をされ、幹事長時代を含めると九年間、清水睦子（39年卒）副支部長とともに大変世話になりました。さて、懇親会が始まると、今回はコロナのため文字通り「久しぶりの再会」状態の総会となりました。55年卒が制作された「想いの出の法蓮校舎」のスライドショーや奈高生徒会で制作されたビデオが上映され、懐かしい校舎の思い出話に花が咲きました。

最後に参加者全員で、壇上にながられた清水幸夫（39年卒）さんはじめ39年卒のコール宝相華の皆様のご指揮のもと、乾杯と伝統の校歌を歌いました。閉会の辞として、菅哲哉（55年卒）さんが参加された皆様へのお礼とともに、今年四月の宝相華会本部総会に向けた決意を述べられましたが、最後にになりましたが、開催決定から当日までの期間が

短い中、準備や当日の受付等でお世話になりました五五年の常任幹事の坂本雅代さんはじめ学年の皆さんのご支援ご協力に感謝申し上げます。

ともしびの会の総会は今年も残念ながら、中止させていただきます。全体の総会は今年四月一日に開催されますので、そちらにて参加してください。

ともしび会だより

現在の私を育んだ四年間

松村 寿代
(定昭56年卒)

令和4年夏、またしても、コロナ感染者の増加、明日は我が身とならぬよう、消毒・換気に明けられる日々です。

この度、「宝相華」第八七号「ともしび会」便りへの寄稿のお話しを頂き、恐縮しております。

定時制課程を卒業し、はや四十一年。遠い遠い昔話と、なってしまうましたが、恐る恐る、記憶をたどってみようと思います。

入学当初は、クラスメートが多いのですが、卒業時には

同い年の同級生が男女あわせて六人、年上の同級生が十一人。今でも年賀状のやりとりが続いています。昨年あたりから、同い年の同級生から、定年退職の日を迎えたとか、配偶者を亡くしたとか、人生曲線も下降気味。そんな時こそ、人恋しく学生時代の仲間と語り合いたい。いよいよ私も、自らを振り返り、あの頃の定時制での四年間を語り合いたいと願うようになってきました。中学生時代とは違う生活が

始まったのは、昭和五十三年の春。奈高の制服を着て、朝は満員電車で詰め込まれ、新大宮駅で下車。全日制の生徒は北へと向かう。私一人だけが、学校とは真逆の南へと歩む。なぜなら私の勤務先が、新大宮駅から南へ七分の所にあったからだ。一年生の頃は「学校とは、反対の方向へ向かう生徒？」今ならば、上空からドローンで撮影したような画を、私は頭に描いていた。その感覚が妙に面白くて楽しかった。勤務先に到着すると、今度は作業服に着替えて、午後四時半まで仕事。就労学生ということで、通学時間は保証されてきました。さあ、学校へ向かいましょう。制服に着替えたら、今度は全日制の生徒とすれ違いますが登校。登校するのには、奈高裏の通用門が、一番近道でした。春は桜。時期を過ぎ散った花びらで桜道となった。夏はセミの声、白い夏服に

染み込みそうな音量だ。秋は落日早く、学校へと早足になった。国語の授業で一句「夕焼けの道を急げり 定時制」冬、あの頃の流行は、CPOジャケット。肩をすぼめて歩いていた。お給料をもらった日は寄り道、途中にあるお店で小さなチョコレートを買っていた。ある時、いつもの道の裏門近くで一度だけ、数学担当の先生と一緒にあった事があった。私が、いつもこの時間と言うと「君は、デカルトのようだね。」とおっしゃった。「デカルト？」と。よくわからないが、褒めて下さったものと解釈し嬉しくなった。以来、数学の苦手意識が無くなった。数学を担当して下さった先生は、毎年違っていたが、どの先生も、わかりやすいように噛み砕いた授業をして下さった。私のクラスは、年齢層は十代から二十代だったのだが、教頭先生が担当してくださった年があり、優しい穏やかなお顔で、三角関数を説いて下さった。クラ

スの中で最年長の男子生徒が茶々を入れたのだが、さすが円熟教頭先生サラリとかわされました。一番お世話になったのは、四年間ずっと変わらず、クラス担任をして下さった、国語の北谷幸冊先生。少し鼻にかかったお声でしたが、生徒が眠りかけていると、北谷先生は大きな声となり、国語の授業を続けられました。なぜか本を読むのは嫌いだっただけ、私は文章を書くのが好きになりました。四年生の時出版部に属し部員はいないけど、出版部長をさせて頂いていた記憶が、おぼろげながら蘇ってきました。今は亡き北谷先生へ 私は今もなお、拙い文章をつなぎ続け、地元のボランティアグループの例会案内等を毎月発行しています。原稿の内容の確認、誤字・脱字・レイアウト・挿絵・発行日に、間に合わせる為には削ったり、差し替えたり。私の作った案内が、思わぬ所まで届いていて、楽しみに

していると耳にしました。
北谷先生、私は先生から学んだ事を、こんな形で活かし

ています。ボランテイアグループの活動が続く限り、頑張ってみようと思っております。

つどい会だより

「川柳」に寄せて

中川 昭雄

(通平10年卒)

先日、つどい会会長桑原さんが、「中川さん。突然ですが、宝相華誌に「ホームカミングデー」を記念して「つどい会川柳」を出したいのでよろしく願います。」と電話があつて、本当に思いもつかんことで、私もびっくりで、これは説明式に綴って行くかと思ひ、ペンを持ちました。その話があつてから三日程たつて、私が購読している毎日新聞の一二月四日付朝刊に掲載された「脳トレ川柳」と銘打った、誰が見ても面白くて、誰でも投稿できる、川島指南役先生が優秀作品を新聞に掲載して講評され、ユ

ニークな作品に「段位」を認定し、初段から永世名人位までとし、昇段試験はポイント制で三ヶ月毎にまとめて図書カード進呈されるとのこと。私もこの機会に川柳を勉強して投稿してみようと決心した次第です。
「川柳」は「俳句」と同じ一七字ですがその内容は全然ちがひ、これを「長句」と云い、「俳諧」の分野になり、例えば、「軒りたくもあり、軒りたくもなし」や、「盗人を捕えてみれば我が子なり」となります。これを称して「前芸」から「小手調べの芸」と云われるそうです。

私なりに川柳を創ってみました。
一、 卒寿終え 若医師先生とご昵懇
二、 卒寿には 岳寿の君より 徳があり
三、 師走来て 友の便りが 喪の報せ
先日、友の令夫人より思いがけない悲しい知らせを戴き、彼には二度と会えないと思うと涙が溢れ、また奥様のお悲しみも察するに重いものを思いました。彼とは飲み友達で親友でした。
奈良県立奈良高校通信制課程の卒業生である私には数々の思い出があります。
一、 師と学ぶ 耐寒実習

熱き冬 師が馴る 熱き走りに 胸躍る
三、 学舎に 笑顔の男だ それ誰
四、 入学と 別離の涙の 「つどい会」
とにかく生まれ初めての川柳で恥かしい作品になりましたがこのことも生きています証 拠ならはですので、毎月新聞掲載のご高齢の全国区二〇名の出稿者の方々に敬意を表して終わりたいと思ひました。本当に有難うございました。

つどい会川柳

- ころ折れ 友の励まし 鬼ちから
- 八咫鳥 入学試験 任せたぞ
- 田圃畦道 転んでカラスカ
- 人間を 少し休んで 鳥になる
- 心ない 慰め言葉に スマホ切る
- 失言は スマホ片手の 心なし
- 平成二〇年卒 森山秀一
- 学び舎で 夢を叶えて 今がある
- 平成一七年卒 和田あさみ
- 今集う 懐かしき友と 母校の庭に
- ここはどこ 道に迷った 法蓮の町
- 駐車場 真つ直ぐ止まらん 七十七
- 残額が とても気になる 年金前
- 昭和五七年卒 桑原秀教
- にぎやかに 堅義の庭を みをさめか
- 平成一二年卒 京本勝弘



- ・つどい会 行きたいけれど
- ・九十歳
- ・あの校舎 あったよあそこに青春が
- ・奈良高の 校章つけて孫が来た
- ・昭和五七年卒 神谷マサエ
- ・再会で 咲かせたい つどいの華
- ・苦学にも耐えた つどい友情のオアシス
- ・学び舎は去れど つどいの碑は消えず
- ・なつかしの 友と逢えし母校の庭
- ・母校で咲いた華 笑顔と握手の絆
- ・苦学にもぶれず共に卒業語り尽きない夜
- ・いつまでも心に刻む学び舎は我等の古里

昭和五八年卒 石田恒夫

10・30ホームカミングデーに参加して

桑原秀教

(通昭57年卒)

つどい会の皆様にとって、奈良高校法蓮校舎は平成二十三年三月の閉課程をもって全て終わった出来事でありました。ほとんどの卒業生は、「閉課程」という現実は大変に重い言葉であったと思います。その上思い出の詰まった、法蓮校舎が、本日をもって完全に閉鎖されます。今回が校内に入ることのできる最後の日です。とのご案内があり、つどい会の皆様にお知らせをさせていただきました。たくさんの方から、お問い合わせが、是非見学をとのお声がありました。皆様、ご高齢、体調不良、諸々の事情で少人数ではありましたが、懐かしい校内をゆっくりと見学させて頂きました。教室を三十分だけでしたがお借りして、記念の写真、記念の寄せ書き等を残すことが出来



ました。当日来れなかった方から、校庭のイチヨウの木を写真に収めたかった等、お声もありました。つどい会からは、ホームカミングデーを記念して、皆様に「つどい会川柳」を作っていたら、今回の「宝相華」に掲載させて頂きたいとお声を頂きました。延期もありました「つどい会総会」も本年令和五年五月十四日十一時よりリガール春日野で開催予定です。詳しくはお知らせをお送りします。

つどい会の皆様
ようこそ母校へ
2022年10月30日

平成10卒 中川昭雄
楽しみにしてました。
高齢の為、大事を取って
欠席します。(代筆)

平成20年卒 森山秀一
ホームカミングデーに
出席するつもりでしたが
体調不良で出席できません。
宜しくお願ひします。(代筆)

平成17卒 和田あさみ
参加したかったですが
体調悪く、欠席します。(代筆)

平成5卒 定廣妙子
つごう悪く
参加出来ません。(代筆)

平成16卒 黒田清子
体力はありますが、
道順が自信ありません。
今回は欠席します。(代筆)

昭和42卒 上田泰助
感謝の事もあり
今回は残念ですが
欠席します。(代筆)

平成20卒 黒崎清子
申し込みしましたが
断を骨折してしまいました
今回は欠席します。(代筆)

平成57年 桑原秀教
母校の思い出を
感懐のつどい会に
こみこみ生かす
つもりです。

平成20卒 黒崎清子
申し込みしましたが
断を骨折してしまいました
今回は欠席します。(代筆)

平成16卒 黒田清子
体力はありますが、
道順が自信ありません。
今回は欠席します。(代筆)

平成10卒 中川昭雄
楽しみにしてました。
高齢の為、大事を取って
欠席します。(代筆)

平成20年卒 森山秀一
ホームカミングデーに
出席するつもりでしたが
体調不良で出席できません。
宜しくお願ひします。(代筆)

平成17卒 和田あさみ
参加したかったですが
体調悪く、欠席します。(代筆)

平成5卒 定廣妙子
つごう悪く
参加出来ません。(代筆)

平成16卒 黒田清子
体力はありますが、
道順が自信ありません。
今回は欠席します。(代筆)

昭和42卒 上田泰助
感謝の事もあり
今回は残念ですが
欠席します。(代筆)

平成20卒 黒崎清子
申し込みましたが
断を骨折してしまいました
今回は欠席します。(代筆)

平成57年 桑原秀教
母校の思い出を
感懐のつどい会に
こみこみ生かす
つもりです。

平成20卒 黒崎清子
申し込みましたが
断を骨折してしまいました
今回は欠席します。(代筆)

平成16卒 黒田清子
体力はありますが、
道順が自信ありません。
今回は欠席します。(代筆)

創立記念講演会

日時：令和四年十月三十一日（月）

十四時～十五時三十分

講師：平田 研也（平成三年卒）

演題：「人との出会いと

あなたたちが これから歩む道のこと」



脚本家の平田と申します。よろしくお願いいたします。

まず何より学校創立一〇〇周年ですね。今年はまだ九十九年目と聞きましたけれども、来年一〇〇周年、おめでとございます。本当に一〇〇年も学校が続いてるって、すごいことだと思っんですよね。先ほどのお話の中で同窓生が四万人弱、それぐらい皆さんの前に卒業していた方がいるということをお話されましたが、本当にすごいことだと思っんです。ただ、今ここにいらっしゃる在校生の皆さんに

とっては、一〇〇年って言われてもピンとこないかもしれないとは思っんですよね。特にその一番後ろ一年生の方々ですかね、まだ入学して半年少しぐらいしか経ってないので、一〇〇年学校が続いていると聞いても、あんまりピンとこないかもしれないんですけども、あなたたちにはそれだけの先輩がいる。そしてこの僕自身も、先ほどの吉村君も、一九九一年に、今から三十年前ですね、卒業したその卒業生の一人です。その吉村先生、皆さんよくご存知の先生とは同級生だったんですけども、今回創立一〇〇年の記念講演に僕に話をしてくれないかと。本当に僕でいいのかと心から思っまして。なぜ

なら四万人弱の卒業生がいて、そして本当にすごい方々がいっぱいいるんですよ、奈高の卒業生には。先ほども政財界にもたくさんいるというお話をされてましたけど、政治の方に行かれた方もいるし、あるいは会社を起こされたりとか、あるいは僕のようにエンターテインメントの世界で名を成している方、そんなたくさんの奈高の卒業生の中で、この一〇〇周年の記念の講演が僕でいいのかと本当に思っましてですね。最初に実は吉村君からLINEが来たんですね。最初に電話が来て、ちょっと無視じゃないんですけど、出なかつたんですけど。奈良高校の吉村です、ご無沙汰してます、急な電話してすみません。実は四月から高の原の旧平城校舎に移転となりました。で、創立記念講演会も開催予定となりました。そこで、講演を平田君に頼みたいとお願いの連絡をさせていただきました。で、僕はどう返したかかっていうと、新しい環境でのスタートは何より喜ばしいことです

が、その講演は僕でいいのか？とは激しく思っますが、また詳細を伺つてから、みたいなことを返してるんです。本当にね。要はメインストリームと言いますか、大学を出て、そして社会のためになることをやられている卒業生が本当にたくさんいて、そういういった人々を差し置いて僕でいいのかと思ったんですけど、でもまあそういう意味で言うと、僕はメインストリームの太い道ではない荒地と言いますか、勝手な道を、我が道を進んできた人間なので、多分皆さんも脚本家なんていう人間に会つたことがある人は、まああんまりいないんじゃないかと思っます。そういう意味で、こういう人間もあるんだよというところで、ちょっとお話をさせていただければいいのかと思っしました。これ（写真）、僕らの卒業した時ですね。一九九一年三月に卒業して、当時全クラスありました。こんな中に僕もいて、そして吉村先生もいるんです。高校

生の時、僕は実は三郷町に実家がありました。で、三郷って、言つてしまえば、奈良県の端っこというか、三郷の田舎者だったわけですけど、三郷で育つてると、大阪に出ることもあんまりなくて、それ以上に奈良市自体も当時は都会というか、奈良市に遊びに行くこと自体もあんまりなくて。だから、奈良高校に通うことになつたっていうのは、少し自分的には上京するっていうか、ステップアップするぐらいの感じだったんですね。で、当時、今もおそらくそうだと思いますけど、奈良高校に入学したんだというのと、周りからすごいねと、そんな風に言つてもらえる存在でした。僕は奈良高校にJRで通つていました。最初はバスケットに入つたんですけども、バスケット、当時すごく強くてですね、国体とか出るぐらい強かつたんです。なので、練習についていけないなって、水泳部に移つたみたいなこともあつて。あと、青丹祭の実行委員をやつたりもしたんですけど、なんかさつ

きの吉村先生の説明だと、僕が結構目立つ生徒だったみたいなことになってますけど、いや、僕は本当にこの中の目立たない存在で、あんまり自分から目立つ場所へ出ていくような人間じゃなくて、むしろ端っこにいるような存在でした。当時、僕がなぜこんな道へ踏み出すことになったかという、ストーリーを作る、考えるみたいなこと自体は好きだったんですけど。信貴山ってわかりますかね。三郷町に信貴山って山があります。その壁面に住宅地があつて、僕の実家は、今もそうなんですけど、その住宅地の一番上にあるんですね。だから、奈良盆地が見渡せるんですよ、家から。で、常に僕は自分の実家から奈良盆地を見渡していて、盆地なのでぐるーっと山に囲まれて見えるんですね。で、自分は奈良高校に通ってるから、麓に下りて、そして電車に乗って、ああ、あっちの方に奈良高校があるなって、それが自分の視界の中に入る。これを毎日見ている、僕はこの中でしか

生きてないなって思ってたんですね。なので、ここから出てやるって当時思いました。あと、ストーリーを考えることが好きだったので、エンターテインメントの世界に行きたい、だったら東京だと。東京しかそういったことを中心にやっているとこはなかったもので、とにかく高校を卒業したら、東京へ行ってエンターテインメントの世界へ入るんだって、信貴山の麓からそんなことを考えていたんですね。で、受験をしまして、先ほど紹介にありました青学に入りまして、東京へ僕は行っただけです。東京の大学に進学できて、最初に自分が何をやってたかっていうと、どうやったらテレビ局とかそういうところに入りこめるかなっていうことをまず考えて。というのは、やっぱりエンターテインメントの世界って、どうやってその仕事に就いたのかってわからないので、じゃあどうしようかなって思ったときに、まずそう言ったバイトを見つけようと思つて。最初に見つけたバイトが、

トが、大道具のバイト。わかりますかね。例えばドラマとか作る時にスタジオにセットを立てるんですね。こっちは側だけ抜けていて壁と柱とみたいのがただ立ってるだけで、撮影が終わったらこれを壊して、また新しいのを立てるみたい。そういうことをやらなきゃならないんですけど、これを立てる仕事のバイト。その仕事を見つけたんですよ。テレビ局にも自由に入りできるし、これはラッキーだと思つて、結局これを大学生活四年間ずっと続けたみたい。余談なんですけど、このバイトの関係で紅白歌合戦の仕事にも入って、紅白歌合戦で後ろに階段が突然ステージに現れたりとかあるいはなくなったりとかって感じがありますね。あれを大道具の人たちがこう暗転した時に舞台上出すんですね。そういう仕事をあの紅白の仕事で一回やったことがあります。あの当時チェッカーズという人気のバンドがいて、藤井フミヤさんというボーカルが人

気のバンドがいたんですけど、そのバンドがちょうど解散する時の紅白に一回だけ入ったんですね。で、後ろでドラムの人は台に乗っていると、あの台を暗転してる間に真ん中にガーターってみんなで出して、逃げるように袖へはけるみたいなことを、実は紅白でやったんですけど。その時にパーって舞台が暗いうちに出して、で明るくなる前に逃げたら、その中の一人が履いている雪駄っていう草履が脱げて、ステージに雪駄が一つだけ残っちゃって、そこにポーンて明かりが当たって。あれ、誰の雪駄だ、みたいな大騒ぎになったってのが唯一の思い出です。で同時にですね。大学で何をやってたかっていうと勉強もしてたんですけど、文学部でしたが、やっぱり映画とか作りたいと思つて、映画の自主制作をするサークルに入つて映画作りとかを始めてました。その時に一人の男と出会ってますね。角田君、これ当時の大学生時代の当時の写真ですけど、角田

誠二さんという男と出会ってますね。でこの男と一緒にですね。大学時代、四年間、自主制作映画というものを作っていました。左上が、僕が監督をやつて、大学生のくせに実はこの二人は刑事役なんですけど、刑事役に演技をつけているところで、右下の方はその映画を作ったメンバーで、その一番右端にいるのが先ほど言った角田という男です。そんな人と映画を作つたりしてました。そんな中でどうやったら自分があのエンターテインメントの世界へ行けるかみたいなことを大学時代、四年間ずっとやってた。結局僕が僕の大学生活でしてなくて、そこからしてもうすでにメインストーリーは外れて我が道を行く感じになってるんですが、結局大道具のバイトでもテレビ局に入社するみたいなことはできなくて、どうしようかなって考えてた時に、ある一人の人物に出会ったんですね。ご存じの方いるかもしれないんですけど、岩井俊二さんという

映画監督です。今も映画を撮り続けてるんですが、この人に出会ったというか、この人の作品に出会ったんですね。

この方、当時はまだ映画を一本も撮っていません、ただテレビドラマをたくさん撮って

たんですけれど、そのテレビドラマが評判になりました、な

んかすごいドラマを撮る人がいるぞって映像が好きなた

ちの界限では大騒ぎになってですね。当時、岩井フリーク

という岩井俊二ファンがたくさん出てきて、僕もその一人

だったんですね。見た作品というのが「打ち上げ花火、

下から見ると横から見るか？」というドラマで、これ

最近アニメの映画にもなりました。でも、これはもともと

この岩井俊二さんという人が作った一時間ぐらいのドラマ

だったんです。このドラマ、当時の大学四年生の僕が見

て、もう衝撃を受けました。で、この人と仕事がしたい

と、バカにも思ったんですね。厚かましくも、そんな風

に思ったんです。この人の下で働きたいと思って。それ

で、大学四年生の僕は何をしたらかかっていうと、直接会いに行ったんです、この人。とにかく会って自分の熱意を伝える、とはいえ、有名人ですから、どうやって会うのかって

いうと、なかなか会えないはずなんですけれど、当時、今

じゃ考えられないことなんだけれど、電話帳に名前も住所も

電話番号も全部載ってるって

いうものが、普通に図書館に置かれてたんですね。図書館

に行つてこれで調べたら岩井俊二って書いてあつて、住所

がそのまんま載つてたんですよ。岩井さんはこれに自分の

住所とか載せちゃつて、住所を見て行つてみたら、岩井

俊二さんの家があつて。僕はそこへ数日通つてですね、岩

井さんが帰ってくるまで家の前で待つていう、今でい

えばストーカーってやつですね、やっちゃだめなんだけ

ど、そういうことをやって、そこの家へ通つたんですね。

そうすると何日か経つたら実際に岩井俊二さんが車で帰つ

てこられて。走つていって、

駐車場の前で岩井さんが降りてきたら、「あなたの作品、本当に尊敬しています、自分をどうか使ってください」と

頭を下げてたんです。そうすると、普通そんな怪しい大学生

追っ払うことできるじゃないですか、けど、この人は非常に

優しく、「そうか」と。「でも僕は今初めての映画を

一本撮り終えたところなんだ、だから今仕事を一緒にでき

るような場がないから、僕が所属している会社を紹介し

てあげよう」と言つてくれたんですね。優しいですよ。

そんな青年に。で、僕は岩井さんの紹介で、当時岩井さん

が所属していた株式会社ロボットという会社を訪ねる

ことになったんです。このロボットという会社は、その

の当時はまだそんなに映画は撮つてなかつたんですけ

ど、ゆくゆく「ALWAYS 三丁目の夕日」であるとか、

「永遠の0」であるとか、「ちはやふる」とかそういう

大ヒット映画をどんどん作るようになる会社で、まあ当時はまだここまでではなかつ

たんですけど、その会社を紹介してくれたんですね。なので僕は大学卒業して、就職先

もなかつたんですけど、ここを訪ねて、岩井俊二さんから

紹介された一人のプロデューサーにお会いして、面接を一

対一で受けて。するとそのプロデューサーが、「君は何が

できるんだ」と。「自主制作映画を作りました」「そう

か。帰れ」と言われて追い返されたんですね。「帰れ」と

いうか、「出直してこい」と言われたんです。「お前

みたいなやつを雇う理由はない」とい感じで追い返され

た。なので、僕は今度ロボットという会社のことを調べて

ですね。実はその会社、今でこそ映画をたくさん作つて

ますけど、もともとテレビコマーシャルをたくさん作つ

ていて。これは最近のもんですけれど、ANAとかGoogleと

か。僕はそのロボットが作ったテレビCMを全部調べて、

そこに関わっているスタッフの名前を覚えて、それでもう一回そのプロデューサーに会いに行つたんです。また一対

一で面接を受けて、「勉強してきました」と言つて、で、「お前はどしたんだ」と

言われて、「うーん」つてなつて、「帰れ」つて言われて。

二回追い返されてですね、さすがに二回追い返されると、

もう駄目だろうなって思つてたんですね。そしたら、数日

後に堀部さんというそのプロデューサーなんですけれど、電

話がかかってきまして、「お前、バイトならやる？」つて

言われて。どんなバイトか聞かなかつたんですけど、

「やります」と答えました。そのバイトつていうのが、当

時、今はもうデジタルだからないんですけど、テレビコ

マーシャルつていうのがテレビフィルムで納品するん

です。だからCMを一本作つたら、例えばテレビ局とか、広

告代理店みたいなところにテレビでオンエアするために、

じゃあ三十本のフィルムを納品してください、みたいなこ

とをしなきゃならなかつたんです。で、その配達係のバイトがいるからお前やる？つていう風に電話がかかつてき

たんですね。だから僕はやりますって言った。が、四年制大学を出てバイトですよ。僕はまだバイトの身から全然抜け出せない、まあ、親からしてみたら何やってんだって感じだと思えますけど、そんなことになった。で会社に行くとかパジェロミニ二つという、ちっちゃな車を与えられて、これで毎日配達するわけです。その頃、あの親友だった角田という男は、テレコムスタッフという、有名なのは、『世界の車窓から』っていう番組を作ってる会社なんですけど、映像の番組を作る会社ですね。その会社へ入って、彼もディレクターへの道を歩き始めた。と同時に、もう一人この頃再会した男がいます、その男は…これ（写真）幼稚園時代の僕です。左側がね。その右側が尾崎君って言って、幼稚園の時に一番仲が良かった。そしてその後も年賀状のやり取りしてるような感じの男だったんですけども、この尾崎義文くんも東京に出てきて、映像業界に入ると聞きまして、それがX1

という、主にTBSの番組を作っている会社なんです。で、大学時代の友達だった角田という男もテレコムスタッフというところで。テレコムスタッフは主にNHKの番組をやっています。『世界の車窓から』はNHKじゃないんですけど、主にNHKと仕事をします。この二人も似たようなところに入ったので、僕はこの二人と時々会っては切磋琢磨するというような形になっていった。特にその角田っていう男は大学時代から一緒に自主制作映画を作る、ある意味友人でもあり、ライバルでもあるような存在だったのでも、ずっと意識しながら今も続いているんですけども。ただ僕はまだ配達するだけのバイトだったんですが、で、あの岩井俊二さんはですね、僕が入ったらロックウェルアイズという自分の個人事務所を作って出ていっちゃったんですね。せつかく岩井俊二さんがある会社に入れたと思ったから、自分は個人事務所を作って出て行っちゃって、え〜っていう感じだったんですけど

ど、ただその後もこの方はたくさん「Love Letter」「スワロウテイル」「リリイ・シユシユのすべて」といったようなものを作り続けていらっしゃる。で、この人は原作者をやらないんですね。いわゆる小説とか漫画とかを原作にした映画っていうのはたかさん作られてますけど、この人ぐらい実力あればもう山ほど依頼が来るはずなのに、そういうの一切やらなくて、自分でストーリーを作って自分で脚本を書いて、そして自分で撮るっていうことをずっといまだにやり続けてる人なんです。そこが僕はいまだに尊敬しているところでそういうところが好きだったんです。で、そんな岩井俊二さんだったので、岩井俊二さんと一緒に仕事をしていたプロデューサーがまだロボットという会社に残ってたんですが、その人から「お前、岩井みたいになりたいんだったら、脚本が書けなきゃダメだ」って言われたんですね。岩井さんは自分で脚本を書くので岩井俊二

脚本が書けなきゃダメだ、そうかと思つて。で、僕は配達を続けている間に、とにかく脚本をその空いた時間に書いて。仕事が終わって家へ帰ったら脚本を書いて、そして夜じゅう書いたとしたら、次の日に朝行つて荷物を積み込んで配達に出かけるじゃないですか。でも配達なんてすぐ実は終わるんですよ。だからどっかで車を停めて昼間この車の中で寝て、会社へ帰ってきて、そして夜また脚本とか、あとシノプシスっていう脚本の前段階のあらすじみたいなものとかを書いてプロデューサーに出して、そしてまた次の日は配達に出て、昼間に車の中で寝て、みたいなことを二年間続けました。そうすると、お前そうか脚本が書けるのか、と言われて、じゃあ脚本家として契約してやるって言われて、僕はようやくそのロボットという会社に脚本家として契約してもらったっていう経緯があります。その時に一番お世話になったのが、ロボットという会社を作った人、阿部秀司さ

んというんですが、僕には三郷に本当の父親がいますけど、この人は僕にとつての第二の父親です。東京でもうど二の父親です。今でも交流がありませんけど、とにかくこの人に可愛がってもらつて色々脚本を書かせてもらった。この人は後々には、それこそあの「ALWAYS三丁目の夕日」であるとか「STAND BY MEドラえもん」、あと最近も「アルキメデスの大戦」とか、とにかく、まあここに挙げたものじゃなくてもたくさん映画をプロデュースしていく方なんですけど、なんか結構ハチャメチャな人だったので…。とにかく映画って、作ろうと思つて作り始めて、企画とか考え始めたら、それが必ず作られるもんじゃないんですよ。十本ぐらい映画を作る企画を走らせて、おそろくその中の一本ぐらいがようやく形になるかなっていう感じでやるんですね。だから、その映画の企画っていうものを考える上でストーリーがいるからお前書けっていうの

を、僕はこの人の元でたくさ
ん書いてきました。例えば
ある日社長室に行くのと、「よ
し、お前、映画のアイデア一
個考えたから、これから取材
に行くぞ」って言われて、「は
い。どこですか？」って言っ
たら「ロンドンだ」みたいな
感じに言われて、いきなりそ
のままイギリスに連れて行か
れるみたい。そんなことも
あった破天荒な人だったん
ですけど、そういう人だったん
で、色々面白いこともさせて
いただいて、非常にいまだに
尊敬している人です。

で、そもそも脚本って何
だって話、ちょっとだけ、脱
線するかもしれないんですけ
ど、させてもらおうかなと思
います。さっきから脚本脚
本って言ってますけど、知っ
てる人もいるかもしれないん
ですが、脚本ってこういうも
ん（写真）で、シーン1、
2とか、これ柱って言うんで
すけど、シーンの柱が立って
いて、例えばシーン1「幹夫
と洋子の家・台所」みたい
な、その場所が書いてある。
で、ト書きと言われる、「台

所に立ってる幹夫がなんとか
かんとか」っていう動きが書
いてある。そしてセリフが書
いてある。幹夫が「できた
ぞ」って言うと、洋子が「は
い」って答える、みたいな。
これが脚本の形式なんです
ね。で、これが本の状態に印
刷されると、上半分が空いて
るのは監督がメモしたりする
ために空いてるんです。こう
いうものが脚本なんです。こ
うい文章が少ないじゃない
ですか、小説とかに比べて。
だから、ストーリーが考えら
れれば誰でも書けそうな気が
するんですけど、実はちょっと
と難しく。なんだろうな、
物語がついているものってた
くさんあると思うんですけど、
たとえば小説はストー
リーがついてますし、あるい
は演劇も物語がついてますよ
ね、漫画もそうだし、で、映
画とかドラマとか映像にもス
トーリーがついている。で
も、それぞれ、ふさわしいス
トーリーテリングってのがあ
るんですよ。小説にふさわし
いストーリーテリング、演劇
にふさわしいストーリーテリ

ング、そして映像にふさわし
いストーリーテリングってい
うものが実はあって、それっ
てどういうものかっていうの
が、話し出すとそれは長くな
るんで、あんまり話さないで
すけど、ものすごく根本的な
話をちょっとだけすると、あ
の、これ（写真）さっきの僕
の友人の一人の尾崎君です。
これは一枚の写真ですけど、
これが動画だと思ってください
い。今この彼の表情を見て
も、感情は見えないじゃない
ですか。何考えてるか。多分
目の前の何かを見て、何か言
おうとしているのかわからない
ですけど、そんな感じだろう
なとは思いますが、これだけ見
ると、なんだか分からない。
なんでもないただの顔を映し
てるだけの映像なんですけ
ど、これをコピーするんです
ね。全く同じものを、1と
2ってコピーしたとするじゃ
ないですか、そしてその間
に、これ（写真）を挟んでみ
る。これがあって、おもしろ
い焼肉があって、これがあ
ると、なんか食べたそうなの
感情が見えてくるんですよ

ね。最初は何も感情が見えな
かったのに、これがあって、
おもしろい焼肉があって、こ
れがある、ああ、
食いてえなあ、とか腹減った
なあ、みたいな感じの感情を
伝えられる。じゃあ次、これ
全く同じ映像ですけど、次に
これを挟んでみましょうか。
これ、ちっちゃい女の子が泣
き叫んでいる映像です。たと
えば、この泣いている理由
が、この子のお母さんが死ん
じゃって、この子が泣き叫ん
でいるという映像にしましょ
う。そうすると、すごくかわ
いそうに思っているように見
えるんですね。これが、モン
タージュというやつで、映像
を作っている人間だったら誰
でも感覚的に分かっているこ
とですけど、こういう風に、
映像をつなげることによっ
て、伝えられることが変わっ
てくる。さっきは同じこの絵
でも、腹減ったなあだったの
に、こっちがくると、かわい
そうだなあとか、なんとかし
てあげたいっていう同情の気
持ちに変わってくる。これが
映像のストーリーテリングっ

てやつで、これ、今、一枚ず
つのカットごとでやってます
けど、これをシーンでもやっ
たりする。一つの場面の塊で
もつなぎ方によってどうい
う風に伝わるかっていうのを、
映像を作る人間は常に考えて
いるんですね。そこを考えて
作るのが脚本であって、要は
僕が思っているのは、映像の
ストーリーテリングというの
は、言葉は一切使わなくても
ストーリーが伝わるもの、そ
れが映像のストーリーテリン
グだと思ってるやつで、僕
はそれをやりたいんです。
すよ。だから、小説でも演劇
でも漫画とかでもなくて、映
像でやりたいのは、そういう
ことなんです。そんな中
で、僕はとりあえず、ロボッ
トに脚本家として契約しても
らって、その道を歩き始め
て、とにかく書きまくってプ
ロデューサーに見せたりし
て、深夜のテレビドラマみ
たいなところから脚本家デ
ビューもして、いろいろやっ
てきたんです。続けていった
らそのうちに、一人の人物と
仕事の上で出会って、そ

てやつで、これ、今、一枚ず
つのカットごとでやってます
けど、これをシーンでもやっ
たりする。一つの場面の塊で
もつなぎ方によってどうい
う風に伝わるかっていうのを、
映像を作る人間は常に考えて
いるんですね。そこを考えて
作るのが脚本であって、要は
僕が思っているのは、映像の
ストーリーテリングというの
は、言葉は一切使わなくても
ストーリーが伝わるもの、そ
れが映像のストーリーテリン
グだと思ってるやつで、僕
はそれをやりたいんです。
すよ。だから、小説でも演劇
でも漫画とかでもなくて、映
像でやりたいのは、そういう
ことなんです。そんな中
で、僕はとりあえず、ロボッ
トに脚本家として契約しても
らって、その道を歩き始め
て、とにかく書きまくってプ
ロデューサーに見せたりし
て、深夜のテレビドラマみ
たいなところから脚本家デ
ビューもして、いろいろやっ
てきたんです。続けていった
らそのうちに、一人の人物と
仕事の上で出会って、そ

てやつで、これ、今、一枚ず
つのカットごとでやってます
けど、これをシーンでもやっ
たりする。一つの場面の塊で
もつなぎ方によってどうい
う風に伝わるかっていうのを、
映像を作る人間は常に考えて
いるんですね。そこを考えて
作るのが脚本であって、要は
僕が思っているのは、映像の
ストーリーテリングというの
は、言葉は一切使わなくても
ストーリーが伝わるもの、そ
れが映像のストーリーテリン
グだと思ってるやつで、僕
はそれをやりたいんです。
すよ。だから、小説でも演劇
でも漫画とかでもなくて、映
像でやりたいのは、そういう
ことなんです。そんな中
で、僕はとりあえず、ロボッ
トに脚本家として契約しても
らって、その道を歩き始め
て、とにかく書きまくってプ
ロデューサーに見せたりし
て、深夜のテレビドラマみ
たいなところから脚本家デ
ビューもして、いろいろやっ
てきたんです。続けていった
らそのうちに、一人の人物と
仕事の上で出会って、そ

てやつで、これ、今、一枚ず
つのカットごとでやってます
けど、これをシーンでもやっ
たりする。一つの場面の塊で
もつなぎ方によってどうい
う風に伝わるかっていうのを、
映像を作る人間は常に考えて
いるんですね。そこを考えて
作るのが脚本であって、要は
僕が思っているのは、映像の
ストーリーテリングというの
は、言葉は一切使わなくても
ストーリーが伝わるもの、そ
れが映像のストーリーテリン
グだと思ってるやつで、僕
はそれをやりたいんです。
すよ。だから、小説でも演劇
でも漫画とかでもなくて、映
像でやりたいのは、そういう
ことなんです。そんな中
で、僕はとりあえず、ロボッ
トに脚本家として契約しても
らって、その道を歩き始め
て、とにかく書きまくってプ
ロデューサーに見せたりし
て、深夜のテレビドラマみ
たいなところから脚本家デ
ビューもして、いろいろやっ
てきたんです。続けていった
らそのうちに、一人の人物と
仕事の上で出会って、そ

てやつで、これ、今、一枚ず
つのカットごとでやってます
けど、これをシーンでもやっ
たりする。一つの場面の塊で
もつなぎ方によってどうい
う風に伝わるかっていうのを、
映像を作る人間は常に考えて
いるんですね。そこを考えて
作るのが脚本であって、要は
僕が思っているのは、映像の
ストーリーテリングというの
は、言葉は一切使わなくても
ストーリーが伝わるもの、そ
れが映像のストーリーテリン
グだと思ってるやつで、僕
はそれをやりたいんです。
すよ。だから、小説でも演劇
でも漫画とかでもなくて、映
像でやりたいのは、そういう
ことなんです。そんな中
で、僕はとりあえず、ロボッ
トに脚本家として契約しても
らって、その道を歩き始め
て、とにかく書きまくってプ
ロデューサーに見せたりし
て、深夜のテレビドラマみ
たいなところから脚本家デ
ビューもして、いろいろやっ
てきたんです。続けていった
らそのうちに、一人の人物と
仕事の上で出会って、そ

れが加藤久仁生さんという、アニメーション作家の方です。アニメーション作家という風に肩書を書いたのは、みなさんがよく知っているいわゆるアニメとアニメーション、アートアニメーションというものはちよつと違うんですね。いわゆるアニメってのは、『SPY×FAMILY』とか、『呪術廻戦』とかっていうああいうテレビで流れてるアニメ。アニメーション作家というのは自分で絵を描いて、要は絵本が動くみたいな。NHKの『みんなのうた』とかで流れてるみたいな、そっちのアニメーションを作る方なんです。当時ロボットには、野村辰寿さんというアニメーション作家の大先生がいて、この方は今多摩美術大学で教授になってアニメーションを教えるってらっしゃるんですけど、その人が、三人の弟子をもっていて、酒井さんと稲葉さんと、そして加藤久仁生さんという三人のアニメーション作家の弟子をもって、僕は野村辰寿さんを含めてこの四人を

よく知っていたんです。交流をしてた。三人の弟子はそれぞれタッチが違うんですけども、こういった作品を自分で描いて自分で動かすみたいなことをやる作家さんたちだったんです。その三人の中の加藤久仁生さんと何か作品を作ってくれと会社から言われまして、で、加藤くん——あえて加藤くんと呼ばせてもらいますが——加藤くんというので、二人で考え始めた。そうしたらその時に、彼が描いたこんな絵を見せてもらったんです。なんか不思議な絵だったんで、これ何？って加藤君に聞いたら、これはです、ちよつとこう水が上がってくるから、家をどう建てるか、そんな絵を彼が遊びで描いてたんですよ。これはおもしろいなと思って、じゃあこれにストーリーつけてみようかって僕がストーリーを考えつけてまして、そしたら加藤くんが、それを絵コンテというものにしまして。これ、絵があつて横に説明がつくもの

なんです。で、この段階でもまた二人でストーリーどうしようかって、どんどんシーンを削ったり足したりとかいろいろやってですね、一か月くらい考えて、そして、絵コンテが固まったら、そのあと加藤くんは、これを一年かけて、たつた十分くらいのもので、一年かけて、自分で絵を描いて、動かして、そして作品に仕上げたんです。それがこの「つみきのいえ」という作品です。この作品、「La maison en petits cubes」というフランス語のタイトルがついてるんですけど、なんでかっていうと、アニメーション作品なんてみなさんあんまり観ることないと思うんですけど、発表の場がないので、賞に応募して箔をつける必要がある。で、フランスです、アニメーション国際アニメーション映画祭というのが毎年行われているんですけど。あんまり知らないと思うんですけど、カンヌ国際映画祭というのは聞いたことがあります。カンヌ国際映画

祭というのもフランスで行われている。これは普通の映画の映画祭なんです。しかも三大映画祭の一つと言われていて、カンヌとヴェネツィアとベルリン、これが三大国際映画祭なんです。そのうちのカンヌ国際映画祭、その中にあつたアニメーション部門が独立して、カンヌという街のすぐ近くにあるアヌシーという街で行われることになったのが、アヌシー国際アニメーション映画祭で、これもアニメーションの世界では有名な、三大アニメーション映画祭の一つなんです。こへ出品するためにフランス語のタイトルをつけたんです。「La maison en petits cubes」、まさに「小さい箱の家」っていう「つみきのいえ」をそのままフランス語に訳したものだ。これを最初につけたので、あとあとまでこれが英語圏のタイトルになっていったわけです。アヌシー国際映画祭に出品したら、グランプリをとってしまいました。最優秀作品賞に選ばれて、注目を浴びました。そ

れが五月くらいの話だったんですけど、その半年後、忘れもしない翌年の一月十五日です。僕はロボットという会社の自分の席で、夜、残業をしてたんです。八時頃だったと思います。そしたら社長の阿部秀司さんから電話がかかってきまして、「お前今何してる」「会社で仕事してます」「何バカなことやってんだ」と怒られました。なんで仕事してんの社長に怒られるんだらうと思いが、「今すぐ来い」と言われまして、で、「わかりました」と行って、会社の近くの居酒屋が貸し切りになっていて。そこへ行ったら加藤くんもいて、なんだらうと思つたら、アカデミー賞にノミネートされた。賞とつたわけじゃないですよ。ノミネート、短編アニメーション賞というところに「つみきのいえ」がノミネートされたということが発表されたって言われまして、ああ、そうなのかと。それもアヌシーをとつたからこそ注目を浴びて、アカデミー賞の選考に残つたんだと思えますけ

ども。アカデミー賞っていうのは、これちょっとアメリカ人ずるいなと思うんですけども、毎年世界中で発表された映画の中で、主にはアメリカで公開された映画なんですけど、その中で一番を私たちが決めてやるっていうような賞なんです。だから毎年二月とか三月くらいにあるんですけど、その前年に発表された作品の中から選ばれる。しかもずるいのは、あなたたちの作品はこの賞にノミネートされました、あなたの作品は短編アニメーション賞の五本の中に残りました、なので、この座席を用意します、でも、来たければ来てくださって感じてねえです。別にそのためにお金を出してくれるわけではなくて。来たければ来ていいですよ、席はとってありますって通達の仕方をしてくるんですよ。でもね、行くじゃないですか。アカデミー賞、映画界では最高の荣誉ですよ。この右側にあるオスカー像という金色の像ですけど、あれは本当に作品を撮った一人にしか、一体

しかあげられない、もらえないものなんでこれみんな欲しいですし、その荣誉を見届けたいから、受け取りに行きたいから自費でも行きたい。やっぱり行くんですね。当然その阿部さんも受賞式に行くぞと言われました。「はい、わかりました」で、結局僕は行くことになりました。ロサンゼルスまで行きました。これが当日受賞式に向かう直前です。一番右が自分ですけども、加藤くんとは阿部さんとあともう一人はですね。通訳なんです。加藤くんが英語が喋れないので、もし何かあった時のためにそばにいるという形ですね。授賞式の会場では全員スマホとかは没収されて中は撮れないことになつてるので、その内部の写真はありません。この直前までです。直前までなんですけど、せっかくなんで、じゃあその受賞の様子の映像が少しありますんで、流してみてもいいですか？見てみてください。(映像)

こういったものになります。加藤くんが受賞の挨拶

をした一番最後、「どうもありがとう。ミスターロボット」っていうのはアメリカで過去に流行った曲なんです。それとロボットという会社を引掛けてちょっとだけ笑いを取った。しかも「サンキュー、なんとか。サンキュー、なんとか。サンキュー、なんとか」の中に「サンキュー、マイペンシル」って言ったのを同時通訳の人が「親にもありがとう」って間違つて同時通訳してるんですけど、加藤くんは鉛筆でアニメーションを作るんで、この自分の鉛筆への感謝を言ったら、ペアレンツだと間違えられたっていうことです。ではこの流れで、その作品一〇分ぐらいなんで、「つみきのいえ」を鑑賞していただきたいと思います。では上映します。お願いします。(映画上映)

ありがとうございます。最初に海の中に家が立ち並んでいる絵を加藤くんに見せてもらってっていう話をしましたけど、あれを見て僕は、あ、そうか、じゃあ、一番上に人が住んでいたとしたら、その

下の家には全部思い出があるんだなと思って、そういつたストーリーを作りました。そして、今ご覧になつていて気づいた方がいらつしやるかどうかかわからないんですけど、セリフが一切なかったと思うんですね。最初に言ったと思うんですけど、映像のストーリーテリングというのは言葉を使わなくても物語が伝わる。これ、音楽と音だけでストーリーが紡がれているわけですけど、これが僕が考える究極の映像のストーリーテリングだと思つていて、フランス人でもアメリカ人でも言葉は関係なくストーリーを楽しめる、これが映像の力だと僕は思つてやっています。そんなわけでアカデミー賞でも評価を受けたわけですけど、アカデミー賞の話にちょっとだけ戻ると、あの前日でもまだこのオスカー像を塗つてるところがアメリカ人らしいと思います。銅像塗つてたりとか。あと、これがさっき映像の中で見たレッドカーペットを外側から見たところです。あの手前に報道陣が並んで

て、レッドカーペットを歩く人を呼び止めて、そこであのインタビュースタッフをしてみたいな感じですね。これ、前日なんでもまだカメラテストとかをやっている。そしてレッドカーペットから入っていくと、こういった階段を登つて会場に入っていきます。で、これは受賞後です。先ほどプレゼンターだったジャック・ブルックとジェニファー・アニストンと一緒に記念撮影をした加藤くん、その後が僕なんです。パーティーがあるんですけど、そこにはハリウッド俳優が、アン・ハサウェイとか。これはショーン・ペンで、この右側にいるのはオリバー・ストーンという有名な監督だったりするんですけど、こういう方々が集まっている場所へ招待されました。ロバート・デ・ニーロとかですね。そのパーティーが終わるとホテルには取材陣が待っていて、すぐにインタビュースタッフを受けるみたいなことがあったんですけど、ただ僕

がこの授賞式ですごく印象に残っているのは、実は日本へ帰ってきて、成田へ着いて成田エクスプレスという電車で乗って都内の方へ帰ってきてる時に、僕の携帯に電話がかかってきたんですよ。誰からだったかっていうと、この男からで、角田、大学時代から一緒に映画を作ってきたやつが電話をかけてきて、受賞おめでとう、と。で、あの「つみきのいえ」を見たよと言うんですね。僕らある意味仲間だけど、ライバルでもあったから、あんまり社会人になって相手が作ったものを見てどうこうっていうことはなかったんですけど、だから彼にも何か自分のものを見て感想を聞くみたいなことは今までなかったんですけど、その時授賞式から帰ってきた時、「つみきのいえ」を見たと言って電話をかけてきて、それであれはお前にしか書けないストーリーだなって言うってくれて、それがすごいなんかうれしかったんですよ。自分のことを一番分かってくれてるやつにそういうこと言っても

らったのっていうのはすごい嬉しかった。あと、実はそれをアカデミー賞の前に絵本にもしてたんですけど、加藤くんが絵を描いて、こっちは絵本なんで、僕が文をつけてっていう絵本を出版してたんですけども、それを読んだ、長野県に住む小学三年生の女の子が手紙をくれました。「初めまして。三年生です。『つみきのいえ』を読んで私は感動しました」って、「それでお手紙を書きました。」みたいな手紙をこんな可愛い便箋で送ってくれたんですね。なんかアカデミー賞も嬉しかったんですけど、僕はどっちかっていうとこういったものの方が本当に嬉しくて、なんか子供って純粹だからか、こういう子にちゃんと内容が届いたんだなって思うと、ああ、こういう仕事をやってきてよかったなって本当に思うんですよ。

長々と僕の経緯を話してましたけど、要は、結局何をこの場で言いたいかっていうと、僕がここで言えるのは二つくらいのこと、一つは、

メインストリームを外れても、そのまんま歩いていけば、多分何かしらどこかにはたどりつけるだろうということだと、僕が思います。僕は偶然——偶然なのかな、まあラッキーにも賞をいただいたので、吉村先生に呼んでもらって母校でこんな壇上に立たせてもらう幸運がありましたけど、仮にそれがなくても、多分さっきの女の子の手紙みたいな、ああいったものをもらうだけで、ああこの道を行ってよかったなと思ったりすると思うんです。そういう道というか、先にある何かみたいなものを見つけてほしいなと思って。自主創造っていう言葉をおそらく聞いたことあるんじゃないですかね。僕が奈高生だったころから言われてたことです。当然ずっと昔から自主創造は奈良高校が掲げてきた言葉ですよ。自主、自分で創れることです。創造というのは、イメージする方のじゃなくて、クリエイティブの方の創造です。自主創造、自分で創れ。要は、自分の生き方も自分で創れることで

すよ。特に思うのは、この自主創造っていう言葉は、奈良高校が掲げてますけど、どこの高校でも掲げていいような言葉じゃないと僕は思うんです。というのは、あなたが自分でやってみろっていうからには、信頼されてないんだめだと思っんです、生徒が。奈高生だから、信頼されて、自主創造っていう言葉を掲げられるんだと思うんです。奈良県下トップの生徒たちが集まっているとまでは言いません。まあそこはおこがましいかもしれないけど、でも、そこそこ、少なくともそこそこ奈良高校生であるからには大丈夫だろうと。だからこそ、自分たちでやりなさいと。そういう風に言われているんだと思うし、僕自身も多分奈高でそんな校風で学びをしてきたから、こんなある意味自分勝手な道を進めたんじゃないかなと思ってます。もってこれが進学校で、いい大学に行くことだけを指してやれという風な、一つの方向へ向かわされる価値観みたいなところで学んでいたら、もしかし

たら今の自分はなかったかもなど、そんな風に思ったりします。だから、大きな、自分が目指すものみたいなものを見つけてほしいなと思うんです。とはいえ、なかなかそんなもの見つけられないかもしれないですけど、そこを大事にしてもらいたいなと思ったりします。そしてもう一つだけ言えるのは、そのためにじゃあ何ができるのかっていうと、人との出会いを大事にしてもらいたいなと思うんですね。結局人間、自分一人でするし、もつと言うと、自分一人ですることなんて何も無いと思っただ方がいいと思うんです。仕事でも、あるいはもしかしら活動とかもそうかもしれないですけども、何をやるかということよりも、誰とやるかっていうことの方が、実ははるかに重要で、何か自分がやりたいと思っただとをやる時に、何をしようかなって考えるよりも、これを誰とやった方が成功するかって思っただ方が、きっと大きな結果につながっていくと

僕は思っている。そのために、自分の中にたくさんいい人の引き出しを見つけてもらいたいと思います。僕は今までこういった人たちに会って来たわけですけども、もちろんこの人たちだけじゃないです。この人たちだけが自分の人生に影響を与えてきたわけではないですけど、こういった方々に支えられてきた。そしてこの方々に出会うためには、もっと膨大なたくさんの方々に今まで出会ってきて、その中には自分と合わないと思う人もいたし、この人とはもう一緒にいたくないなと思う人もいた。でもそういう人がいたからこそ自分にとってのいい人ってこののを見つけてこれたと思うので、だから皆さんはたくさん人と出会ってそういう人々をこれから見つけてもらえるといいなと思います。で、そんな中でももちろん社会人になってからの人ってのは大事なんですけど、学生時代、まあ僕も学生時代ってそんなにコミュニケーションが良かったわけじゃないから

友達が多かったわけじゃないですけど、学生時代の友達っていうのは打算なく出会えるので、高校時代とかあるいは大学生でもそうですけど、学生時代の友達っていうのは後々残ってくる存在なので、大事にしていくといいですよ、という言葉を残したいかな。ここに五人のおじさんたちが写ってますけど、これ全くの余談ですけど、これ毎年会って飲んでる僕の奈高時代の友達です。真ん中は僕で、残りの四人はそれぞれの道を歩んでいるんですけど、いまだにこういった風に会ってます。それから、僕の妻も奈高の卒業生で、その妻とはかつての校舎の二階と三階の間の階段の踊り場で高校二年生の時に会って、それから付き合ひ始めました。そして結婚して三人の子供をもうけてまして。今現在も彼女は僕の人生を支えてくれている大事な人です。えーと恥ずかしいんで一瞬だけ見せますけど、卒業式の時の僕と妻ですね。実はついさつきLINEが妻から入りまして、講演す

べらないといいね、みたいな、そんなプレッシャーがかかってきましたけど。まあ三月一日、自分たちの卒業の時に撮った写真です。本当に最後に言いますけども、自分の道っていうものなるべく信じて進んでいってほしいなっていうこと。なぜそういう風に言えるかっていうと、あなたたちは奈高生なので。奈高生として、責任とか信頼とかそういうものをすでに持つてると思うんですね。僕が三郷の田舎者だった時に、奈高に入ったって言うたら、奈高生なんだ、すごいねって言われたぐらい、そういった何か特別な信頼みたいなものを持つていると思うんで、自分で道を拓く、自主創造の気持ちを忘れずに進んでもらいたい。それは自分やっつけてこれたことなんで、多分あなたたちもできると思ってます。そのためには人との出会いは大切にした方がいいですよ。それが今日僕がこの場で言えることのすべてです。ご清聴ありがとうございます。

第37回奈良高校OB美術展

会期

2023年3月28日【火】



4月2日【日】

時間

10:00 -- 17:30

■ 初日13:00 --
最終日--15:30まで

場所

奈良市美術館
第1展示室
(ミ・ナール5階)

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、入場制限や開催の中止を行う場合があります。発熱や咳の症状がある方は入場をご遠慮ください。ご来場の際は、必ずマスクを着用ください。感染拡大予防にご理解とご協力をお願いいたします。
URL <http://naraobart.web.fc2.com/>



学 校 行 事



ホームカミングデー



学校創立記念講演会



プラトン・アリストテレス像除幕式



青丹祭



体育大会



新春カルタ大会



修学旅行



文化鑑賞会

羽ばたけ奈良高・「朱雀」の地で



航空写真中央やや上が奈良高等学校。昭和55年に設置の平城高等学校の跡へ、前年春に移転した。まるで札幌か名古屋市街地を想わせる。

編集後記

新型コロナウイルスのための自粛も5月にはとけるようになりそうですので、我々の生活も大分自由になってくることと思います。

この三年間は本当に息苦しい感じがしましたね。

ところで、この度も無事、第八七号の会報誌ができあがりました。

執筆者の皆様には、大変ご無理申し上げてすみませんでした。

昨年八月には五四年度卒業生方々による令和四年度総会が無事行われました。

また、大阪、東京でも支部総会が開催されました。準備など幹事の皆さんたちは大変だったと思いますが、無事に終えることができましたように。

総会での講演は中医師・薬剤師の幸井様で、この会報誌にその内容は書いて頂きました。

また、卒業生による創立記念講演は脚本家の平田様に在校生に向けてお話をいただいた。

きました。

ともに実のある内容ですので、ぜひ、読んでみてください。

学校では、法蓮校舎で「ホームカミングデー」が行われました。盛会で千数百人の方が来られたそうです。百周年記念の準備も先生方のお蔭で着々と進んでいます。

これからは皆さま方のお力も必要となってきますので、その節はよろしく願います。

原稿の方もよろしく願います。

TEL : 0742-26-3636
FAX : 0742-23-6912
Mail : masaseif@alto.ocn.ne.jp

(藤原 正義記)



部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考		
水泳競技部	第29回奈良県高等学校新人水泳競技大会	女子50m 自由形	第8位	J 1	勝見 野々花			
		女子100m 自由形	第6位	F 5	森井 那智			
		女子50m 背泳ぎ	第5位	J 6	竹内 陽香			
			第7位	J 9	河端 綾音			
		女子50m 平泳ぎ	第5位	F 7	土肥 愛莉沙			
			第7位	F 2	和田 優花子			
		女子100m 平泳ぎ	第1位	F 9	福西 由衣			
		男子4×100 フリーリレー	第7位	F 9	今城 優輝			
				F 2	澤部 晴太郎			
				J 7	西川 颯汰			
男子4×100 メドレーリレー	第8位	F 2	前田 泰希					
		J 7	西川 颯汰					
		J 7	高井 蒼生					
		F 7	久保 優真					
ソフトテニス部	令和4年度奈良県高等学校ソフトテニス北部地区大会	男子個人戦	準優勝	J 1	森本 遼平			
			第5位	F 7	鳥谷 拓和			
				F 8	富山 一成			
	令和4年度近畿高等学校ソフトテニス選抜インドア大会兼第48回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会近畿予選				J 1		森本 遼平	1/8、9 長浜バイオ大学ドーム(滋賀県)
					F 7		鳥谷 拓和	
					F 1		植田 悠太	
卓球部	第50回全国高校選抜・第37回近畿新人大会奈良県予選	男子団体	ベスト8	J 6	井上 友翔	12/24~26 ジェイテクトアリーナ		
				J 7	照井 大智			
				J 7	山本 亘			
		女子団体	ベスト8	J 9	西村 匠未			
				J 9	川上 朔			
				F 6	野俣 慶			
				F 7	三好 祐輔			
男子ダブルス	3位	F 7	春木 将太					
		F 9	春木 将太					
男子シングルス	6位	F 9	春木 将太					
バスケットボール部	第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会奈良県予選	女子	第3位					
ハンドボール部	第46回全国高等学校ハンドボール選抜大会奈良県予選兼 奈良県高等学校ハンドボール新人大会	女子	3位					
陸上競技部	令和4年度全国高等学校総合体育大会	棒高跳	7位	S 3	村中 春友			
	第55回近畿高等学校ユース陸上競技対抗選手権大会県予選	男子2年100m	優勝	J 9	富田 雅晴			
		男子2年200m	優勝	J 9	富田 雅晴			
		男子2年走高跳	3位	J 5	松島 陽太			
		男子1年800m	3位	F 2	門長 佑樹			
		男子1年3000mSC (3000m 障害)	2位	F 1	香月 大志			
		男子1年やり投	2位	F 3	大住 慎月			
		男子1年円盤投	3位	F 3	大住 慎月			
		男子共通 4×100mR	4位	F 7	沖倉 伊吹			
	J 6			高野 友翔				
		F 4	井戸畑 想太					
		J 9	富田 雅晴					

部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考		
陸上競技部	第55回近畿高等学校ユース陸上競技対抗選手権大会 県予選	女子2年800m	3位	J 4	村山 七海			
		女子2年やり投	2位	J 9	田口 菜奈子			
		女子2年砲丸投	3位	J 9	田口 菜奈子			
		女子1年800m	3位	F 9	藤森 あい			
		女子1年1500m	3位	F 9	藤森 あい			
		女子1年400mH	2位	F 8	阪上 菜名			
		女子1年100mH	1位	F 6	松田 結菜			
		女子1年走高跳	2位	F 6	松田 結菜			
		女子1年やり投げ	1位	F 4	石川 美優			
		女子1年円盤投	2位	F 4	石川 美優			
		女子共通 4×100mR	3位	F 3 J 5 F 6 J 1	佐野 那々美 福井 那菜 松田 結菜 大田 菜			
		女子共通4 ×400mR	3位	J 3 J 4 J 8 F 9	堀 早希 村山 七海 石井 優菜 藤森 あい			
		男子2年総合	4位					
		男子1年総合	6位					
		男子総合	4位					
		女子2年総合	5位					
		女子1年総合	2位					
		女子総合	2位					
	第75回奈良県高校総合体育大会	男子棒高跳	1位		S 3	村中 春友		
		男子走高跳	2位		J 5	松島 陽太		
		男子円盤投	2位		F 3	大住 楨月		
		女子やり投	3位		J 9	田口 菜奈子		
		女子円盤投	2位		F 4	石川 美優		
		女子100mH	1位		F 6	松田 結菜		
		女子 4×100mR	3位		F 3 J 5 F 6 J 1	佐野 那々美 福井 那菜 松田 結菜 大田 菜		
		女子総合	5位					
		男女総合	5位					
	第73回奈良県高校駅伝競走大会	区間の部 第4区	3位		J 9	岩田 明輝哉		
	第38回奈良県高校女子駅伝競走大会	総合の部	3位		J 4 J 4 F 9 J 5 J 8	村山 七海 中村 彩音 藤森 あい 大脇 千央 石井 優菜		
		区間の部 第2区	3位		J 4	中村 彩音		
		区間の部 第3区	3位		F 9	藤森 あい		
		区間の部 第4区	3位		J 5	大脇 千央		
		区間の部 第5区	3位		J 8	石井 優菜		
		ESS 部	PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会	ベストチーム賞	1位	J 1 J 2 J 3	楠田 萌々香 日樫 みちる 楠田 梨々香	
				ベストディベーター賞		J 1 J 2 J 3 J 7	楠田 萌々香 日樫 みちる 楠田 梨々香 森岡 美月	
	エキシビジョンディベーター賞				J 1	楠田 萌々香		
	ベストPOI賞				J 1 J 2 J 3 J 7 J 9	楠田 萌々香 日樫 みちる 楠田 梨々香 森岡 美月 小池 陽乃		